

月報

1984 1 月 號



シンガポール日本商工會議所

〈 目 次 〉

(1984年 1 月号)

1984 年新年随想

年頭所感	(日立造船)	水戸 清	1
新年雑感	(三井物産)	青柳 茂雄	
新年随想	(三菱銀行)	田中 寛治	3
新年雑感	(東京銀行)	生松 俊也	5
新年随想	(伊藤忠商事)	豆原 寛	
建設業雑感	(熊 谷 組)	古田 孝行	8
新年随想	(丸 紅)	榊原 輝典	9
生産性に思うこと	(シンガポール松下無線機器)	小出 富夫	10
続々 “タダの人”	(三菱商事)	林 孝雄	11
私のゴルフ	(NEC シンガポール)	黒岩 隼	12
ルック・サウス	(新日本製鉄)	高橋 治	14
新年雑感	(日本郵船シンガポール)	吉村 晃	15
新年随想	(日商岩井)	岡崎 徹朗	16
シンガポールに暮らして	(岡本シンガポール)	三森 和正	17
走りながら考える	(シンガポール・タイム)	小林 紀夫	19

新年随想	(住友銀行)	赤松 孝彦	20
新年随想	(東京海上火災保険)	望月 沖	21
無題・夢題	(トミーシンガポール)	後藤 敏邦	22
新年随想	(ヤオハン・シンガポール)	竹田 具視	24
新年雑感	(横河電機シンガポール)	渡辺 昭雄	25
まちがい	(シンガポール・ジャパン・) マーチャント・バンク	森 茂二郎	26
禁煙一九八四	(シンガポール・野村 マーチャント・バンキング)	福田 俊介	28
東南アジアに初めて勤務して(日本貿易振興会)		井手 俊弘	29
新年雑感	(在シンガポール日本国大使館)	片山登喜男	30
地下鉄とMRT	(株式会社大林組)	花嶋 晴道	32
シンガポール石油化学 コンプレックスについて	(ペトロケミカル・コーポレーシ ョン・オブ・シンガポール)	泉井 彬	41
1983年第3四半期のシンガポール経済の動向			53
会員紹介			58
理事会の動き			60
12月～84年1月の主な経済記事			64
広報欄			70
資料案内			71
編集後記			73

新年随想

1984

シンガポール日本商工会議所

年頭所感

会 頭

日立造船ロビンドックヤード(株)

社長 水戸 清

会員の皆様、新年を迎え謹んでお慶び申し上げます。

ご高承のとおり、シンガポール経済は昨年、経済成長率7.2%を達成したほか、生産性も4.6%向上するなど予期した以上の成果を収めました。リー首相の年頭所感では今年度も7%程度の経済成長が見込まれるなど先行き明るさが増しつつある中で新年を迎えることができますことは、誠にご同慶の至りでございます。

さて、当商工会議所といたしましては本年、従来事業の充実を図る一方、新規事業にも積極的に取り組む所存です。

具体的には、先ず再留学援助制度

があります。本所ではJUGAS(元在日大学留学生協会)の人達にシンガポール発展のため、また日星両国の相互理解増進の原動力として活躍してもらうよう願って元在日留学生を再度日本へ年間1~2名研修派遣することを理事会で決議しております。そして準備を進めて参りました結果、日立製作所(株)が心よく留学を受入れてくださり、日本の通産省の奨励金とJCOI拠出金と日立製作所の種々のご好意により、いよいよ2月上旬に実現する運びとなりました。私共といたしましては本制度により一人でも多くの人を日本へ派遣し、技術移転、人的交流を通じて日星間の相互理解と友好関係の一層の増進に貢献していきたいと考えております。

次に在星企業の国際競争力の強化につながるよう積極的な意見活動を展開したいと思います。これらを考

新年雑感

え、地元経済社会と気楽な意見交換の場を作ることが必要ではないかと考えており、今後機会をみて各

CHAMBER 同志の数人による QCC ではないが、意見交換の場をもって行ってはどうかと思っています。

最後に、800社を超える日系企業が当地で活躍されておりますが、未だ当商工会議所へ入会されていない方達は何卒ご入会くださり、全ての在星日系企業が一丸となって新たな局面に対処していきたいと願っております。

以上、思いつくままに抱負の一端を述べさせていただきましたが、本年も相変りませず本所事業活動にご支援、ご協力賜わりますようお願い申し上げます。

年の始めにあたり、会員の皆々様の一層のご健勝とご多幸を祈念いたしまして年頭の挨拶とさせていただきます。

副会頭

三井物産株式会社

支店長 青柳 茂雄

シンガポールに赴任して丸3年4度目のお正月を迎える。季節感が無いせいかその時々感触であつという間の3年間であつたり、随分長い3年間であつたりする。何れにせよこの3年間を振り返るとき今更のようにシンガポールの変貌のスピードに驚かされる。着任した時降りた PAYA LEBA 飛行場から東洋一否世界一を誇る CHANGI 飛行場へ、その飛行場からの緑したたる EAST COAST PARKWAY 及び遠くインドネシアの島々を見渡せる PRESIDENT SHEARS BRIDGE の完成、加えて ORCHARD ROAD 及び SCOTTS ROAD 十字に拡がる新しいホテル、ショッピングセンターの展開は正に目を見張るものがある。

この数年世界景気の不振を尻目に高度成長を遂げた ASEAN、中でも当国は10%前後の成長で正に天の時を迎えた時期であり、又マラッカ海峡の要衝を抑える東の日本、西の中東、北の中国、南のインドネシア

豪州の十字路に位する地の利と、多民族国家なるが故に人の和を重視する国内施策と三拍子揃った条件が今日の隆盛をもたらしたといえよう。

それはさておき、振返って見る私生活の3年間は如何、遺憾乍らいささか墮眠、飽食、ゴルフ三昧に墮した感を拭い切れない。熟睡と栄養補給は熱帯生活における健康保持の秘訣でありゴルフは商売道具の一つと開き直るとしても、ゴルフハンディ20台後半での停滞は如何にもお粗末。4年目の正月を迎えるに当り参加賞ばかりの賞品を見渡し乍ら今年こそは20の壁に挑戦してみたいと覚悟を新たにしている次第。

新年随想

副会頭

株式会社三菱銀行
支店長 田中 寛治

この数年長びく不況に悩まされてきた世界経済も米国景気の本格的回復に伴い、本年は久し振りに良い年になる見込みで、我々ビジネスマンとしても明るいムードで仕事初めにかかれることはご同慶の到りである。

ポーランドに始まり、メキシコ、アルゼンチン、ブラジル、フィリピン等に波及した国際金融不安もIMF等の支援に加え、民間銀行団の国際的協調により何とか破局を避け解決の方向に進んでおり、又失速の懸念を持たれた米国経済も個人消費主導型の景気回復から、設備投資回復による安定したペースの成長が期待される状況で、当国を始めASEAN諸国の景気回復も急ピッチで進むものと思われる。ただ米国の高金利とドル高が依然問題として残るが、前者に就ては、高金利時代に目覚めた米国民の金利選好傾向の高まりから、米国経済にビルト・インされた感があり、当面金利の低下は期待されず、

後者に就ても、米ドル金利の高止りに伴う金利差に加え、有事に強いドルの信奉は、当面続くと思われるので、我々としては米国の高金利とドル高を前提に商売を考えた方が無難と思われる。

さて、仕事の話と別にとすると、話題は何と云ってもゴルフになるが、昨年の成果を振り返ってみると、前半 GREY 会と金融二水会で優勝したあたり迄はまあまあとして、後半はやればやる程スコアが悪くなるといった惨たんたる状況で、折角 25 迄行ったハンディも年末には 26 と振り出しに戻り、誠に遺憾な結果となっていた。年も年だし、長年うまくならないものが、今になってうまくなる訳がないと、我が女房どのはくさしているが、折角のゴルフ天国に来た以上今年こそは、三五会の優勝とハンディ 19 獲得を二大目標に頑張る度いと年頭の誓いをたてている次第である。

ゴルフを別にとすると、当地に来ての娯楽は、何と云っても読書となる。こちらはハンディもないし、誰に倅かることもないので、暇をみては乱読にふけっている。南洋の夜は暑いし、固苦しい本を読むのは苦痛でも

あるので、大体は歴史物か軽い読物が中心となるが、一冊一冊選んで買うのも面倒なので山岡壮八「徳川家康」全 26 巻、池波正太郎「鬼平犯科帖」全 12 巻といったものをまとめて買ってくるケースが多い。前者に就ては、かつて経営者が経営の指針として争って読んだと云われており、又昨年の NHK の大河ドラマにとりあげられた丈あり、確かに面白く、一気可成に読ませる点はさすが大衆作家の雄であると感じたが、家康としては秀頼を殺したくなかったという最後のくだりに及んで、何とも後味の悪い読後感になっていった。一般的に太閤鼎員の多い平均的日本人の一人である私からみると、「何とか難癖をつけて大阪城を滅ぼした狸親爺の家康」のイメージが心に焼きついているので、何とも納得し難い点である。「戦のない世界」を家康が構想したのは事実としても、あく迄も権力闘争の結果としての徳川家の安泰を考えた筈であり、家康を生れついでに理想的平和主義者と考えるのは無理がある。家康の一生をみてみると、「生れついでに環境から来た忍耐強さ」と「三河以来の鉄の結束を誇る家臣団」が最大特徴

であり、これが故に秀吉とは逆に常に少数精鋭で大軍に勝ち抜き遂に天下をとるに至ったものと考えられる。この点が不況下における経営者の心を捉えたのであろうが、これから読まれる方は関ヶ原辺りでやめておいた方が良いでしょう。

次に「鬼平犯科帖」であるがこれは文句なく面白い。娯楽としては最高で何回繰り返して読んでも面白い。「池波節」ともいうべき簡潔にしていさぎ良い文体に加え、主人公長谷川平蔵独特の勘ばたらきと果敢な行動力は誠に魅力的である。とにかく男が男にほれるとしたら、鬼平みたいな人であろう。是非一読をおすすめしたい。

最後に真面目な本をあげるとすれば、「エクセレント・カンパニー」は一読に値する。企業は人間が作り、人間は従業員の中にあるとの考え方で貫かれており、国を問わず「エクセレント・カンパニー」に共通の思想があることが良く判る。

以上駄文を費したが、会員の皆様の益々のご発展を祈念して筆をおきたい。

新年雑感

理 事

株式会社東京銀行
支店長 生松 俊也

明けまして御目出度うございます。常夏のシンガポールへ着任して、一年経過し時の流れの早さに驚かされます。季節の無い土地の暮しがどういふものなのかやっと分りかけた所です。当地で小生は季節を感知できないのですが、庭にある Rain Tree は確実に一年一回落葉し、新しい葉に生れ変わります。自然はデリケートな季節の変り目を敏感に察知して甦る様です。小生も今年は少なくとも気持の上で、季節感の感じられるメリハリのある生活をしたいと願っています。

さて、昨年は国際金融界にとり正に試練の年でありました。ラ米を中心に累積債務問題が発生し、これがアセアンの一角のフィリッピンに飛火しました。本年も発展途上国の累積債務に如何に対処するかは深刻な問題です。基本的には国際協調しかありませんが、我々東京銀行としても最大限の協力により、本問題の解決に少しでもお役に立ちたいと考え

ている次第です。幸い国際協調のムードは高まっており、国際金融機関と各国中銀、商業銀行が一体となり、国際金融市場の正常化をはかる年になる様願っています。

シンガポール金融市場については、順調に伸張し、昨年一千億ドルを超える規模となり、香港市場のほぼ倍になりました。MASもシンディケート・ローン組成に関し優遇措置をとる等、市場育成に努めて居り、又本年半ばにはシカゴと結んだ金融先物市場がスタートする予定で、当地金融市場にとり一段と飛躍の年になる事が期待されます。

為替市場の動きは、我々にとり日々気になる所ですが、特に年初には本年の為替相場がどうなるか一大関心事になります。円相場の先行き予測は危険な賭ですが、あえて私見を述べると、円は現在のレベルより円高へ動くのではないのでしょうか。東京資本市場自由化、円の国際化の動きは更に進み、先物実需原則の徹廃、輸入金融の優遇、中曽根ボンドの発行等の具体策が徐々に円高への効果を発揮していくことでしょう。ただ曲者は米国の実質金利水準と「有事に強いドル」です。フィリピンの

如く、アキノ暗殺と国際収支危機が直結してしまったケースもあるし、97年問題とからんだ香港ドルの急落、更には中近東のきな臭い戦乱など政治面の不安定要因が幾つもあります。特に本年は日米ソが「政治の季節」を迎えています。政治と経済が不可分となっている今日、国際情勢に大きな波瀾無しに政治が安定する事が何にましても重要でしょう。本年が平和な年である様願っています。新しい年が会員の皆様にとって、益々ご発展の良い年である様祈ります。

新年随想

理事

伊藤忠商事（株）

支店長 豆原 寛

早いものでシンガポールに赴任して四度目の正月を迎えんとしている。この月報での「新年随想」もこれが最後になろうかと思う。休日の度に、或いはパーティーの度にお誘いいただいた皆様、お蔭で単身赴任の憂さを感じることなく厚く御礼申し上げます。

来年は米国大統領選挙の年でもあり、世界景気も米国・日本の立ち直りを挺子に低迷から脱すると期待されている。但し迫力ある回復は見込めまい。石油危機から十年も経ったが、世界経済メカニズムの変革の過程で、勤勉を美德としないラテンアメリカと効率の悪い社会主義国が、大巾な累積債務を抱えに到って、経済の循環を妨害している。局面的、局地的な好況とならざるを得ない。

現代は政治優先の時代と云われる。世界で最も安定した地域と思われるアジアでも、この数ヶ月に相次いで事件が起った。ベトナム以降逃げ腰だったアメリカの、「アジア回帰」が一因との説もあり、難解な中東は当然として世界中の何処で何が起っ

ても不思議ではない。日本は世界で最も安定した国と云えようが、それだけに一般国民の国家安全保障に対する考えが稀薄であることは確かである。中曽根首相が「国家安全保障」と「教育」と云う二つの最重要命題に手がけ始めたのは、国民の一人として大歓迎すると共に、時間をかけて国民のコンセンサスを得るべきと思う。

資源のないシンガポールの資源は「土地と人間」とよく云われる。「土地」の方は埋立・再開発・各種インフラ整備が急ピッチで進んでおり、機能的には世界の最先端を行く都市国家となろう。一方「人間」となると歴史と教育の集積であり、短兵急の成果が挙がり難いのが判っているだけに当国政府の意気込みは凄しい。「Learn from Japan」以来、当所への期待と課題は極めて大きいわけであるが、工業部会が中心となつての「NWC」「NPC」関連の諸活動は、高い評価を受けているやに聞いており喜ばしい限りである。深田大使ほか大使館の御指導と水戸会頭ほか各部会の関係者の方々のご尽力に対し、当所理事の一人として潜越ながら御礼申し上げたい。

会員各位の新年の御発展を祈りつつ。

建設業雑感

理事

株式会社熊谷組
所長 古田 孝行

世界の建設業者注目の的であった、地下鉄工事の発注も一段落し、それぞれの工区で着工した。

過去数年間にわたり世界的な不況の中で、シンガポールの建設業界は順調にその工事量は増え、ショッピング・センター、ホテルと次々に着工し、街の中はクレーンが林立している。一時期、韓国業者との受注競争で一步後退していた日本の建設業者も、去年は、順調に受注し、現在日本業者の手持工事量は4,000億円になったとも云われてより、前述した、地下鉄工事はもとより、官庁工事、民官工事の各分野にわたり、広く受注している。この事実は日本の建設業者のモットーである、納期の厳守、品質保障が広く客先の評価を得ていると云えよう。

他方、現地業者の動きを見てみると、大手数者の受注は順調と云えようが、中規模工事に対する競争がはげしく、現地業者との競合は勿論の

こと、外国業者に敗退するケースが多く、現地建設業者の間では、外国業者に対する風当たりが激げしくなってきた。

昨年、7月ごろから、シンガポール建設業協会が主体となって、外国業者、特に韓国、日本業者に対し、中規模工事への入札辞退の勧告もされて来ている。

シンガポールは政府方針として、入札工事は、すべてオープンであり、規模の多少を問わず、外国企業も入札出来るとはゆうもののシンガポール建設業協会の勧告も無視は出来ない。今年は、これらの現地からの要望も強くなって来ると考えられる。日本の業者も現地建設業との交流を積極的に行い、お互いの立場を理解し合うべきではないかと思う。

新年随想

理事

丸紅（株）

支店長 榊原 輝典

明けまして御目出度う御座居ます。
年末の派手な、クリスマス・デコレーションも、何か異様に目映りし、四季の無い常夏の国での、最初の正月を迎えた。

今迄、日本を含め特に寒い冬を海外で経験して来た者にとって、年がら年中暑い毎日は、いささか閉口したが、人間の身体は良く出来たもので、日を追うに従って、慣れて来、幸い冬季に入り、事務所などの室内では、冷房のきき過ぎに寒さを感じる迄に至った。

樹々の緑は変る事はないが、年輪の無い巨木も、落葉の時期ともなると、ゴルフ場などで、ボール探しに一苦労する昨今である。

夏の暑い盛りには、住んでいる高層アパートの中にまで、蟻が上って来てみたが、今の時期には、この蟻の集団も見られなくなった。

落葉といい、蟻を云い、森羅万象を良く知っているのには感心し、常

夏の国にも、微妙な自然の移り変りのある事を知った。

キングス・イングリッシュ、アメリカン・イングリッシュ、オーストラリヤン・イングリッシュ等、世界には数多くの英語が喋られているが、その中でも難解の一つが、我がシンガポーリヤン・イングリッシュ—俗に云うシングリッシュ—であろう。

中国人を主とする多民族国家故に統一語として、英語が使用されているが、中国人特有のアクセントに、語尾を発音しない—少く共自分には聞こえない—為に全く異った外国語の様に聞える。半年経っても未だ半分しか分らない。

年輪の無い、シンガポールの樹とは逆に、どちらかと云えば、60才に近い自分の年輪は、これからも正確に増へ続く事だろうから、四季という節目の無いシンガポールで、自分なりに節目を付けて、年輪に狂いの無い様にして行き度いと考えている。

2万人の同胞が、事故も無く健康に、夫々が節目を付けて、今年も頑張ってゆかれる事を祈念したい。

生産性に思うこと

理事

シンガポール松下無線機器（株）
社長 小出 富夫

華々しく賑やかだった Productivity Monthもジングルベルの音楽が流れる頃には納まってしまったようだ。昨年11月に2年目のProductivity Monthを迎え、当商工会議所としても積極的に協賛し、ポスターコンクール、QCサークル発表会、生産性セミナーの3つの行事を成功裡に終ることができた。これもひとえに会員各位のご協力の賜と、生産性担当委員として感謝している。

当地の生産性向上運動についても、QCサークル活動など、いささか華美に過ぎるきらいはあるが、何とか定着してきたように感じられる。中国の故事にある「隗より始めよ」の精神だろうか。身近なできることから着手するということは、成功への近道だと思ふし、それを続けていけば、「だんだん良く鳴る法華の太鼓」になっていくだろう。

いつかの新聞に出ていたことであるが、スイスのある調査機関の発表

によれば、当地の生産性は世界一であるという。いささか眉つばものであるが、数字の扱いようでは如何ようにでもなるのが、この生産性というやつである。それだけ、つかみよのないものである。しかし世界規模でみた場合、労働者の勤労意欲の高さ、賃金レベル、インフラストラクチュアの整備状況など、総合的にはトップレベルにあることは間違いない。だからこそ日本の正月を棒に振ってまで、赤道直下で正月を過ごして居られる方が多勢居られるのではないだろうか。

話はそれだが、いかに苦勞して生産性を上げて、多くの産品を輸出に頼る当地としては、相手国に買ってもらわなければ喰っていけない。従って、生産性を上げると共に、相手国とも仲良くし、できるだけ良い関係を保っていくことが大切である。そのためには相手国との産品の取引関係だけでなく、人間と人間との係りあいを持つことが重要なことではなかろうか。

何はともあれ、今年は米国をはじめとして中くらいの景気が続くということに期待したい。

目出度さもちう位なりおらが春
一茶

続々 “タダの人”

理事

三菱商事株式会社

支店長 林 孝雄

一昨年昨年と、二回に亘って、ゴルフに関する駄文を弄した。その後も、回数の方はプロ並み（或はそれ以上？）だが、腕前の方は、相変らずの低迷が続いて居る。然し、それは小生にとっては、全くの常態であって、今更そのことを、とやかくぼやく必要は毛頭ない訳である。精々、皆さんにボールチットを差上げて、我が家の家計を若干圧迫する代りに、皆さんの友情と健康をかちとって居るだけのことである。

ところが、最近、この平静心に波乱を起す様な出来事がもち上った。と云うのは、暮もおし迫った一日、新井規矩男プロが、ジャカルタで行われたワールドカップの帰途、当地に立ち寄られたのである。当地日本人会有志の組んだ歓迎行事の中に、シンガポリーヤン及び日本人夫々若干名を対象とした、同プロによるレッスンと云うのがあり、小生もレッスンを受ける光栄に浴する一員に選ばれた（但し有料）。レッスンは1

人当たり数分と云う短いものであったが、小生の場合、グリップ、スタンスからスウィングに至る迄、殆んど総てを直された。一言で云えば、今迄やって来たことは間違いだらけと云っても過言ではない、と云うことが分った次第である。不思議なことに、同プロの指示通りボールを打つと、自分でも驚く程良い球が飛ぶのである。目から鱗が落ちると云うか、内心“しめた”と思ったのも凡人としては致し方なき仕儀であったと思う。

その数日後、当地商社支店長会親睦ゴルフがあった。小生としては、内心期するところがあった。ところが、いざ本番になって見ると、プロの教訓と自分本来の癖とがごちゃ混ぜになって收拾のつかない有様で、結果は散々だった。考えて見れば、そんなに簡単に開眼する筈はない訳で、今更内心“しめた”と思った自分が恥かしい限りだが、矢張り今迄同様“タダの人”であり続けて、皆さんに愛されるゴルフを続けることが、小生には一番相応しいと云う結論に落ち着いた今日この頃である。

私のゴルフ

理事

NECシンガポール・プライベート・
リミテッド

社長 黒岩 典

1980年の6月の初め、シンガポールの前任者から、「貴方をゴルフ場の会員にしておくから、そのつもりでいてほしい」と言う電話を受取りました。赴任が発令されたのは、7月1日でしたから、発令の1ヶ月も前だった訳です。

それまでの、私とゴルフの付き合いは、非常に消極的なものでした。

十数年前に、課長の肩書きをいただいた時、上司となつた人は、世の中にゴルフしか楽しいものはない、と言った感じの人でした。たまたま、一緒に社外に出掛ける機会があると、「一寸、一発打って行こうじゃないか」と、常に車の中に準備してあるクラブを持たされ、練習場に寄らされたことが、何回かあったように覚えています。

1968年の夏、初めてアメリカと言う土地を踏みました。ここにも、楽しみは酒とゴルフと言った仲間がいて、よせばよいのに、ニュージャージーのコースに引張り出され、ハ

ーフを81で廻って、ケネディ空港に到着したのが離陸の5分前、旅行荷物を持ったまま出発カウンターに走り込んだことを、今でも明確に記憶しています。

シンガポール赴任の2年前位のことであったのでしょう。その頃は、私も部長の肩書きを背負っていました。と一人の課長が、部長杯なるものを提案して来ましたので、何に使うのかと問えば、ゴルフのコンペ用だと、至極当然の顔をする訳です。驚いた事には、部長も避けて来たゴルフに現を抜かす輩が、何人か部内にいることを知らされました。コンペとなれば、杯を提供した部長は、当然参加すべきと、道具を揃え、車で迎えに来ました。まあ、それ程に言うならと、煙の出るボールを打たされたのが2回、勿論のこと、杯は誰かの手に渡って行きました。幸に、赴任が決まったために、それ以上、高価な杯を買う必要はなくなると、秘かに安堵の胸をなでおろしました。

「社長、ボールから目を離さないで下さい。」「社長、振り方が速過ぎます。」「社長、脇の下から腕を離さないでください。」

1980年7月21日（日）、シン

ガポールに到着、次の土曜日から特訓が始まりました。仲間は、皆、非常に親切です。

しかし、安堵の胸は、ここで逆なでされることになりました。「社長、毎年、社長杯を提供していただくのが、わが社の決まりなんです。」

月並みながら、3年半で約300回、雨が降ろうが、槍が降ろうが、ある時は走り、ある時は歩き、約3000Kmの道程を踏破したことになります。自分の提供した杯を、優勝と取切り戦を過ぎて、持ち帰ったこともあります。

今や、消極的にしている場合ではなくて来ました。ハイエナのような仲間が、紳士の競技にはあるまじきハンデなる甘い汁を餌に、常に、一時の優越感に浸ろうと、虎視眈々、餌食に狙をつけています。

昨日まで、平均120を叩いていた人が、突然、平均90以下をものにすることはないようです。必要なことは、自分に適当と思われる目標を作って、何とか手に入れて行くことでしょう。それでも、ある時は不況に見舞われることも、又ある時は突然の好景気に振廻されることもあり得ます。つきも実力と嘘ぶいてい

ては、18ホールを同じ調子で歩くことはできそうもありません。見方によっては、今こそ秀れたマネジメントが要求される段階と感じています。

一説には、ハンデはゴルフを始めた年令の半分までとか。クラブを振りだして、既に4回目の正月を迎え、ビギナーとは言えない気がしてきました。今年こそ、そのジinxスを破るつもりでおります。

会員の皆様、今年もよろしく願いいたします。

ルック・サウス

理事

新日本製鐵株式会社
事務所長 高橋 治

齢をとってきたせいだろうか。老年の生活設計の一つとして、趣味の話題が、ときどき出てくるようになった。この齢まで、何度となく趣味の欄に記入する必要があったが、その時の気分で、読書と書いたり、囲碁としたり、たまにはレコード鑑賞とつけ加えたりで、余り深く考えた事もなかった。さすがにゴルフと書くことがなかったのは、腕の方を気にしてのことだったろうか。考えてみれば、うまくなければ趣味でないという理屈もない訳であるが。

読書といえば、最近読んだ本の一筋に、こういうのがあり、妙に心を打たれた。

“「故人になられたので、特に名を秘すが、某有名文学者と碁を打っていたら、黒石がお逃げになった。はるか前方の一見シチョウ当りに見える石は、役に立っていないと申し上げたら『万一ってえことがある。やってみないのに何がわかる！』と怒られた。盤上大半の黒は安楽死とな

った。しかし、ぼくは嬉しかった。万に一つということもあるっていうんだよね。あの人はいいねえ」。碁そのものは、それほど強い人ではなかったけれど、まさかシチョウを知らないわけではなく、逃られぬと知りつつ、あえて逃げたという心根は、優しさや意地とのまじりあったものであったろう。

近年の日本製造業の合理化志向はすさまじく、たしかに経済大国への寄与は、たいしたものであるが、コンピューターの論理の息苦しさや囲まれていると、9分9厘だめでも、ひょっとしたらというロマンに救いを感じる気持ちになるのも、自然の作用であろうか。

昔に比べて、無駄や遊びが少なくなったように思える日本を、外から眺めて、幸せの感覚も、だんだん正常から外れて行くような不安を感じたりする。最近、シンガポールの便利さを楽しみながらも、ジャカルタやバンコックのおおらかさに魅かれる日々である。

新年雑感

理事

日本郵船（シンガポール）株式会社
取締役社長 吉村 晃

広報委員会担当理事として理事会の皆様方に「新年随想」をご執筆頂くようお願いしながら、自からは2年続けてエスケープと云う訳にも行かず、原稿の締切りを目前に控え重い筆を取り上げて書き始めた次第である。

年の始め故、何か明かるい見通しでも述べて先づは目出度しと行き度い所であるが、残念乍ら私の属する海運界にとっては、どう見ても1984年も又昨年同様極めて厳しい状態が継続しそうであり、所謂「海運冬の時代」が終焉に至るには未だ可成りの時日を要すると思われる。

従来の海運の歴史に於いては、定期船・不定期船・油槽船の三部門の内、どれかが悪くても他の部門で救われ何とか格好がつくと云うパターンが繰り返されて来て居たが、今回の海運不況は三部門の同時不況と云う嘗て無い厳しい事態となっており、邦船中核体六社も御多分にもれず此の三部門同時不況の重圧がのしかか

り不振に喘いでいる。

石油需要の減退と過剰船腹で全く水面下を低迷して居る油槽船部門は云うに及ばず、一般不定期船市況もバルカーの世界的過剰船腹問題に加え貿易面及び輸送需要の変化もあって従来の「V字型」から「L字型」へ変り、嘗ての様に一度市況が底をつけば急カーブで上昇すると云った事も期待出来なくなって居る。今や市況の低迷は可成り長期化すると云う見方が大勢を占めて居る様である。又、大手邦船社にとっては大黒柱であった定期船部門も、先進諸国の景気回復が定着化しつつあるにも拘らず、海運同盟の弱体化・途上国及び社会主義国の外航海運新規参入並びに船隊強化による競争激化等々により今や水面下に低落し、既に定航は曲り角に来たとの認識が持たれつつある。

此の様に海運界は何処を眺めても芳しい話には縁が無く、合理化は云うに及ばず生き残りの為あらゆる面からの見直しが行われて居る現状にある。

本業の具合が悪くとも、せめて自分のゴルフの腕前でも上がれば若干なりとも気晴らしになるのだが、一

向にオフィシャル・ハンディキャップが10代に近附く気配もなく、唯いたずらにゴルフ歴のみを積み重ねて居る。

人間矢張り正直なもので、仕事の方が上手く行かない時は遊びの方もそう上手くは行かぬものの様である。

少々神頼みにも近くなるが、何かの拍子で仕事の方も急拠好転ゴルフの腕前も急上昇と云う事になって貰い度いものである。

新年随想

理事

日商岩井株式会社

シンガポール支店長 岡崎 徹朗

生来、人との付き合いが嫌いでなかったし、生活環境に順応性を持っていた事から海外に出たいという単純な発想から商社を選んだ。期待通りロスアンジェルス勤務2回通算7年サウジ2年の駐在を経て現在4度目の海外勤務中である。

商社の営業に身を置けば家族との対話も限られるし、一緒に食事する機会も極めて少く仕事か家庭が大事かとの自問も多い。4年前サウジから帰国後せめて正月休み位は家庭サーヴィスし日頃の罪ほろぼしをしょうと決意し以来毎年3泊4日湯の宿を訪れる事が慣習となった。

然しながら年々上昇する経費と国鉄運賃の高騰と混雑に嫌気がさし近距離を選ぶ傾向が続き昨年はついに小田急沿線で料理で有名な宿を選びそれなりの目的は達し得たものである。今年の計画としてもっと近い都内のホテルにしょうか或いは航空運賃のダンピングの激しい折から海外にし

た方が安上りかもと話をしていた所
昨年 8 月当地に駐在する事になった。
息子の教育問題で単身赴任を余儀なく
されその代り正月休みを利用し家族
の訪星が実現する事になった。息子
にとっては初の海外旅行であり家族
共々当地で過す正月も乙なもので
ある。

それにしても航空運賃の値下げは
庶民にとって有難い。この為日本人
の海外旅行が年々増加し外貨減らし
に若干寄与しているわけだが時には
日本の恥部を全世界にさらけ出すチ
ャンスも増加しているようだ。海外
生活に慣れた人達は先づ現地の人々
を理解しようと努めるし彼等を意識
し必要以上に神経を使って行動する
が一般旅行者の中には旅に出た解放
感と自己本意の考えから強い批判の
対象とされている。

家庭内暴力、学校内暴力等々も含
め何かが狂っている。日本の教育が
優れていると云われてもそれは入試
とか就職試験を意識した詰め込み主
義に片寄り真の人間性高揚に寄与し
ていないと思わざるを得ない。学校
での修身教育の徹底と同時にやはり
家庭内でのスキンシップの重要性も
痛感せざるを得ずせめて自分の息子
には国際社会に出しても恥しくない人
間に育てて行きたいものと考えてる。

シンガポール に暮らして

理事

岡本（シンガポール）株式会社
常務取締役 三森 和正

昨年 3 月、家内と二人でシンガポ
ールに赴任してから既に 9 ヶ月、あ
わただしく 1983 年が通り過ぎて行
った。戦前、父が朝鮮鉄道に勤務し
ていた関係で、外地暮らしは知らない
訳では無いが、それは親がかりの
古き良き時代の話、自分で会社と生
活の責任を持つとなれば、ただ事で
はない。幸い前任者が残してくれた
良きスタッフと業績のおかげで、何と
か今日までつないで来ているのが、
現状である。

シンガポールと云う国は、アジア
の中にあり乍ら、一風変った存在だ
と思う。丁度、日本に於ける札幌が
東京からずい分離れていながら、地
方を感じさせない都会の雰囲気を持
っているのと同じ様に、シンガポー
ルも南方の発展途上国の真中にあっ
て、名実共に近代都市国家を形成し、
しかも中国的生活環境の中に、西欧
の文明を程良く採り入れているのも
珍らしい。或いは形の上ではこの逆
なのかも知れないが。

事実、シンガポールを訪れる人の

大部分は、美しい花や緑に囲まれ乍ら、空港から延々と伸びるハイウェイや、近代的なビルディング、高層住宅、そして街を行く若者の洗練された服装や、ショーウィンドーを飾る一流ブランド商品の豊富さに、目をみはるに違いない。

更に一歩中に踏み込むと、世界の主要銀行が軒を連らね、一大金融センターを形づくると共に、広大な工業団地の中では、世界の先端技術がその覇を競い合っている。国はマラッカ海峡の要衝にあって、東西を結ぶ交通の拠点であるばかりでなく、市内には世界の一流ホテルを揃える観光の中心地でもあることは言うまでもない。

然し、一方では、異った民族、異った宗教が混在し、言葉の障壁が随所に立ち塞り、また赤道の真下にあって、熱帯そのものと云う気象条件のハンデはあるにしても、この地で生活する上での妨げにはならないであろう。

いま、新たに1984年を迎えて、21世紀へと一歩近着いた。激動する東西の中間に位置し、南北を二分するこの地にあって、日本を、そして世界の動きを冷静に見つめるのも

意義あることと思う。

シンガポリアンは、概して素直である。教えることに少しの疑問もはさまないし、云はれた事を、真剣に実行しようと努力する。その成果は未だしの憾があり、双方の基本的な考え方の違いもあるし、何かにつけて勘定高い。何とかして、物の視方の角度を変えさせたいと思っはいるけれど、今年は何事も余り急ぐまい。その精神はともかく、形だけでも真似出来れば、やがてその本質に近づくもののようである。何か教えてやろうと云う思い上りでなく、初心に帰って、一緒に考え、一緒に学び合い、その成果を分か合う楽しさを共に味わいたいと思う此の頃である。

走りながら考える

理事

シンガポール・タイム

取締役 ジェネラル・マネジャー

小林 紀夫

“忙しい、忙しいで今年も暮れて行く。この超スピード時代には、走りながら考えるのが適しているのかも知れないが、それでは息が続かない。時には立止まって、一人静かにめい想する時間を持ちたい……”という、くだりが暮れの新聞に出ていたが全くそのとうりだと思う。

日本では暮に一年をふり返り、正月には今年の抱負を考える時間を自分なりに持つことができるが、当シンガポールにおいては、インド、マレー、中国それぞれの正月はあっても日本人のための正月がないせいかな、やっぱり、走りながら考えるしかないようだ。

小生、昨年11月末に当地に赴任して間もない。しかも当地の事情をよく理解していないうえに、政府からの諸制度がめまぐるしく変り、また住宅、ホテル等が急ピッチで林立している姿をみると、やっぱり走りながら考えざるを得ないと思う。

然し一方、現地人の動きをみると

極めて、のんびりとしている。製造会社である当社の動きは南国情諸豊か？というか日本から来たばかりの小生には奇異に感じられて仕方がない。街の中をみても然り。唯街道を走る車のみが、やたらとスピードを出し、追越しをしているのが不自然である。そういう小生も、一年のサイクルが回れば、シンガポールイズされて、のんびりした、不自然な人間に変わっていくのかも知れない。いやいや、そうならない為に常にフレッシュな感覚をあらゆる筋から入手していきたいと思う。JCCIの会合においても、そのような情報交換をしたいものです。JCCI万歳！！

新年随想

理事

株式会社住友銀行

支店長 赤松 孝彦

元旦にはブリットコースの9番及び18番の池越えを無事果たして、1984年のスタートを順調に切った。グリーン・クリスマス、サマースーツのお正月、いずれも私にとっては初めての体験である。

当地でご厄介になって丁度ワケ月、ひょんなことから、口の悪い先輩より「赤鬼」なる異名をちょうだいした。

最近思うことだが、人間強くなければダメで強い企業は心身共に強い人間の集団である。強くなければ人助けも出来ないし、社会の発展にも貢献できない。常日頃、職場の部下職員に、「強くなれ。言いたいことをはっきり言える商売人になれ。」と言い続けている。

しかし問題は強さをむき出しにしないことである。広辞林に「鬼」の説明の一つとして無慈悲な人となる。この鬼は頂けないのであって、私はロマンとユーモアに満ちたメルヘン世界の「赤鬼」を念頭に置いている。

このお正月、ブルネイ国の独立を見た。私も二度訪問する機会を得たが、人口20万人余の小さな国ではあるものの、経済的には最も豊かな国家で、アジアのみならず世界の目を集めている次第である。

昨今財政的に行き詰まりをみせている国家が増えているなかで、山椒のように小粒ながらも力強い国家の誕生は歓迎されるべきことである。

日本は確かに経済大国となり、強い国である。この強い国がまだまだ経済発展の途上にあるアジア諸国の為にどれだけその発展の手伝いをすることが出来るか、アジア諸国民の注目するところである。

東南アジアで勤務する機会を得た我々も商売を通じてその国の為に何をなし得るか絶えず考えることが大切であり、またそれが出来る人・企業が本当に強い人・企業であろう。

「赤鬼」の異名にふさわしく、人より怖れられ、且つ慕われるようこの一年間商売のみならず、ゴルフ、麻雀にも健闘すべく努力いたしたいものである。

新年随想

理事

東京海上火災保険シンガポール株
取締役/総支配人 望月 沖

明けましておめでとうございます。
皆様よき新年をお迎えのことと存じます。

さて、私にとってはシンガポールで迎える初めての正月です。今迄ずっと日本で過ごしてきた正月とは全く趣の違う暑い中での“新春”ですが、それはそれなりにあらたまった気持ちになるもので暦とはまことに便利なものだと思います。

ところで、約4カ月前、シンガポールに着任し、挨拶回りをしている折、お得意先の某さんから、「こんな本がありますがお読みになりますか」といって一冊の本を手渡されました。忙しさの中で放っておき、最近ようやくページを開いたものですが、それは42年前旧日本軍による“昭南”（現在のシンガポール）占領前後の様子を記述したものでした。読み進むうちに、現在の地名と同じ場所が沢山出てきましたが、ここがかっての戦場として熾烈な攻防が行われ、いくつかの悲劇があったこと

に胸が締めつけられる思いになりました。日本を出発する前は、シンガポールは“クリーンシティ”とか“ガーデンシティ”と聞かされ、実際、当地に参りましても、その通りであったわけですが、この緑豊かな明るい国にも、既に遠くなったとは云え、このような過去があったことに対し、同じ日本人として心が痛む思いでした。

現在シンガポールは東南アジア随一の工業先進国として着々と国づくりに邁進しておりますが、我々日本企業駐在員としても、何とかこの面でお役に立ちたいと願わずにはおられません。

窓外にふと目を移すと、今朝も陽光に映えた緑がまばゆいばかりです。

新年を迎え、心を新たに、今年も有意義に過したいものと思っております。本年も宜しくご指導のほどお願い申し上げます。

無題・夢題

理事

トミー (シンガポール) 株式会社
社長 後藤 敏邦

マラッカ海峡を黄金色に染めて静にそして雄大に沈む夕日、その前を黒いシルエットとなって音もなく走り去る商船……ジュロンヒルでの想い出を書いて早や一年がたちます。何故一年がこんなに早いのか、齢のせいではなく夏一色の故かと八つ当たり気味の昨今です。

ギラギラする太陽とキラキラ輝く貯水池の水面、ボギーだダボだいやバーディー？だと赤トンボならぬ白球を追っていつの間にやら太陽は山影に、そしてゆっくりと輝きを増す南十字星（4～7月頃）……この夏又夏の熱帯の地で強制的に“時”を味はさせていただけるのがこの原稿です。

感謝しつつも涙が出てくる程遅々として筆は進みません。

特に去年は約半分が海外とチャンギ空港を出たり入ったり、時間的にも精神的にもこれだけあわただしく胃のキリキリ痛む一年を過したのは我が五十年の人生で初めてでした。

半ズボンのゴルフ姿で鏡餅を眺める事すでに十二回、明日（一月二日）はいよいよ馬齢五十才を迎えます。

ライフスパンは年々驚異的に伸び今や八十才になんなんとしている現在、五十才は壮年期とも申せます……が矢張り“人生五十年、化転のうちにくらぶれば……”の一節が我々の年代には強烈な印象、感無量のものがあります。

年令以外の事で最近とみに感じている事が一つあります。

過去幾度となくヨーロッパに出張しましたが昨年ほどズバリ認識をあらためさせられた年は過去にありません。

“英国恐るべし……”素直に認めるべきでしょう彼らの眼の色が変わって来つつある事がひしひし分りました。

西独には六年前に進出、フランスは一昨年、英国は昨年初頭から自分の手による本格的な販売を開始したんですが特に英国人スタッフから群をぬいた熱気を感じた次第です。

ロンドンの南、サットンという小さな田舎町にオフィスがありその近辺から通勤してくる人々にはロンドン子とは違う雰囲気のある事は確ですが、それにしても彼らの体力、活

力そして責任感の強さは想像出来ぬものでした。

仕事に追いつけなくなると平日の残業は無論、土曜日といえども自主的に出勤、バリバリやっている姿を見せられては兎を脱がざるを得ません（…残業代は勿論ありません）。

サッチャー首相という一人の強烈な個性を持つ指導者の出現がこの様に大きな影響を与えるものかと驚いた次第です。

このままゆけば往時の大英帝国と迄はゆきませんが“EC”の雄として世界経済に大きなインパクトを持つたたかな英国になるのはそんなに遠い日ではないと思います。

勿論一地方での十人前後のわずかな期間の経験、絶対とは申せませんがここは素直に“したたかなり英国”として今より我々も心の準備をしておくべきでないでしょうか。

フランス、ドイツもようやく何か動き始めたと申してよいでしょう。

何か柄にもない事書きました、年に一回の事お許し下さい。

最後に新年の抱負、前記ヨーロッパの現状を十二分ふまえ本業（オモチャ）に一層の努力をすると共に悲願いや熱烈願望と云うべきか（聞く

人によってわかれるであらう）
サンゴ会、グレー会の連続優勝を双手に楽しかったシンガポール生活を締めくくりたいと思います。

本当にありがとうございました！

新年随想

理事

ヤオハン・シンガポール

ゼネラル・マネージャー 竹田 具視

明けましておめでとうございます
本年もよろしくお願い致します。

私ども流通業界において、昨年はまさに激動の年でした。日系のみならず、他の外国系、さらにシンガポール地元企業による大型店の新規出店が連続し、この国の大型店舗の面積は、わずかこの1年で、倍増したと言われる程のすさまじさでした。

何年か前の日本で、数多くの地方都市において、同じような状況が生じ、雨後のたけの子出店とか集中豪雨的出店と言われ、その結果として大型店の出店を規制、禁止する法律の制定という方向になったことと全く同じ状況です。国の経済の成長が鈍化した時期であり中小の小売業者の反発が大きな要因でした。

このシンガポールにおいては、出店の禁止等の制約は当面考えられないと思いますが、それだけに、ますます厳しさをます競争は、新年も変化はなく、日々の地味な努力が要請され続ける年であろうと考えます。

流通担当者にとって厳しい事でも、(振り返って、国民の大多数を占める消費者の立場に立てば、買物、レジャーに対するより多くの選択の場が増加することであり、シンガポール国民の最大の楽しみの一つである、ショッピングの巾が広がることですので、好ましい事です。あまり、しんどい事だけを考えず、新年を機に、体力、気力を再チェックして、明かるい気持ちで日々頑張ろうと思っております。

御指導の程よろしくお願い致します。

新年雑感

理事

横河電機シンガポール（株）

社長 渡辺 昭雄

会員の皆々様、明けましておめでとうございます。

ちょうど5年前の1月に、シンガポールで開催された第1回Chem Asia Conferenceに、論文を発表するため、はじめて当地を訪れました。緑の多い街、暑さもそれほどではないという印象をもって帰りましたが、4年後に当地に赴任するとは夢にも思っておりませんでした。それが一昨年暮に赴任がきまり、昨年3月にあわただしく着任しました。それから、あっという間に新年を迎えたような気がします。

聞いてはおりましたが、当地では確かに季節感が失なわれるようで、暮のクリスマスもショッピングセンターやホテルは大々的にデコレーションをしているのを見ましたが、ピンと来ませんでした。ときどき蝉が鳴くのを聞くことがありますが、どうも地上に出て来たから、鳴かないわけにはいかんし、適当に鳴いておこうというような感じがします。

当社では、昨年は3月に工場の拡張工事が完成し、親会社が買収したGE社のメータビジネスの一端を担うということがきまり、第2のKick offの年でありました。今年もいろいろなことが起りそうな気がしますが、はじめをつけてやって行こうと思っています。

昨年シンガポール日本商工会議所の理事に選任されましたが、毎月の理事会に出席するごとに当会議所の役割はますます重くなって行くという認識を新たにしております。この国に対しては、水戸会頭が常々言っておられるように「何らかのメリットがあるということでシンガポールに来てお世話になっているのだから、何らかの意味でお返しをせにやならんでしょう。」という気持ちが基本ではないでしょうか。そういう気持ちで理事の1人として当商工会議所の発展に少しでもお役に立ちたいと思っています。

また昨年末、転勤された渡部理事の後任としてNPB主催のAdvisory Committee on Trainingのメンバーになるよう当商工会議所から指名されましたが、諸先輩のご助言、お力添えをいただきながら重責を果したいと思っています。よろしくご指導、ご鞭撻のほどをお願いする次第です。

ま ち が い

監事

シンガポール・ジャパン・

マーチャント・バンク

取締役総支配人 森 茂二郎

四度目のお正月を迎えることになりました。新年劈頭 冴えないことですが、ひと言お詫び旁々訂正させていただきますことがあります。実は昨年の新年号に初めて寄稿させて頂いたまではよかったのですが、これが真赤な失態で「四十ニシテ感ワズ、五十ニシテ耳順フ」とやって下さい、気付いたときは後の祭りで、恐縮し乍ら、この一年を過したことでした。何事にも間違いとか盲信とかありがちだから必ず原典にあたるべきであると、他人様にアドバイスしながら、自分はこんな態ですから、洵に申訳の立たないことでした。誌面をお借りして深くお詫び申し上げます。「旅の恥はかきすて」になりかねないと、ひそかに心配（期待？）しておりましたが、無事一年がめぐりきたり、ここに、訂正お詫びの機会に恵まれ、幸いでした。

この間違いに気付いた後、時折、無然として思い出したのですが、「六十ニシテ耳順フ」といった論語

の言葉など、昔、生意気な旧制中学時代、日常、面白がってよく口にしていたものでした。それが或る日フト思い出して使ってみると、間違っているというのは、これは矢張り老化現象の始まりなのではないでしょうか。しかしながら、いささか言い訳めいて参りますが、いつぞや、大倉輪銀総裁が新聞で、ある偉い人が「李下に冠を正さねばならない」と訓辞されたとか、おつむの薄くなったお偉方多数出席の会議の席上、若い某氏が盛んに「公定歩合のハゲサバ（下げ幅）」を連発してついにお目玉を喰ったとか、あるいは或る人が「二の三の言うな（四の五の）」と叱咤したとか、思い違い言い違いの面白い挿話を披露されていましたが、ほんとにこの種失敗談は枚挙にいとまがありません。

また、一般に、俚諺とか故事熟語の類は、若い人ほど馴染が薄くなるようで、誤用も多くなりがちです。「一姫二太郎」を娘一人息子二人が適当という意味にとったり、「情はひとのためならず」は、教育ママ的過保護はマイナスといった戒めにとる人がいるという具合です。尤もそれはそれで十分意味が通るから面白

いものだと思います。

ニュアンスは違いますが、初めての海外赴任での英語にまつわる失敗の珍談綺談については、皆様、よくご経験の通り(?)であり、文字通り抱腹絶倒というのも少なくありません。いつかこんなものばかりを集大成してみたらいかがなものでしょうか。私のにとっておきにこんなのがあります。

ニューヨークの車の教習所では、初日から路上になります。赴任匆々のA君、いささか緊張の面持で出頭したところ、教習所のおっさんは、すぐ彼を車のところへともない、何か指示しました。全身を耳にして聞いてみると、嬉しや、理解できるではありませんか。後での話で、その時、A君、百分の一秒位、「ちょっと可笑しいな」とは思ったそうですが、ちゃんとわが耳で聞きとったところに従い、オズオズと後車輪の横にしゃがみこみ、チンチンよろしくおっさんの顔を仰ぎみたら、くだんのおっさん、これ亦キョトンとして「What are you doing, sir! ?」。解説によると、おっさんは、「Please sit behind the wheel」といったものらしく、wheelとは、ハンドルのこと

だったという話。

間違いのない、明るく楽しい1984年であってほしいものです。

禁煙一九八四

監事

シンガポール・野村マーチャント・
バンキング

社長 福田 俊介

今年は公私にわたり試練と挑戦の年であります。当シンガポール野村は今年で創業12年目を迎えますが、国内外共に政治不安は引続きエスカレートの様相を呈し、日常業務を取りまく環境は昨年以上に厳しくなると予想されております。努力、創意、決断、実行を以って何とかこの環境での業務の発展に努め度いと考えております。扱て標題でお察しの通り、もう一つの試練はプライベート面での大決断に対する挑戦であります。禁煙。これは正しく愛煙家にとりましては悲壮な決断であります。一人でひっそりと断つことが出来れば何もこの様な晴れがましい誌上で語ることは必要ないのですが、敢えて月報に公言する程の決意であります。実を申し上げますと、過去に三回一時的に禁煙したことがあります。いずれも海外勤務時代で、ロンドンの1974年に約1年間、二度目がジャカルタの1979年に3ヶ月間、そして一昨年末から当地での6ヶ月間で

あります。いずれも結果的には失敗に終わりました。まずロンドンでは、それ程の一大決心もなく、力まずに、不思議な程さらりと一年間止める事が出来ました。二度目のジャカルタでは、一人で禁煙するのが口惜しいと言いますか、バカバカしく思い相棒（某銀行の所長さん）を探し、3ヶ月という期限付で負けた方がゴルフセット、希望する銘柄何でも、を贈呈すると言う懸賞付きでやりましたが、さすがに両者とも3ヶ月間は無事過しましたが、3ヶ月と二、三日後の某日、御一諸にゴルフをやり、ホールアウト後にクラブハウスで実にうまいタバコをどちらともなく喫ったものでした。三度目は、来星中の当社の役員との賭で、次の海外拠点長会のある83年3月末までの6ヶ月間という約束で、又々懸賞金\$1,000を付け、各々東京、シンガポールに見張り役をつけましたが、3月末までは見事成功いたしました。但し半年後の9月の同会議では両者とも何喰わぬ顔でスパスパという状態でありました。まあ考えてみれば過去35年有余、一日最低20本喫い続けて来ましたわけで、ガンになるなら、もうとっくになっている筈

と慰めつつ、一方では肺ガンほど苦しみつつ死ぬ病気はないと聞くにつけ、悶々と、嗅いながら、毎日を過ごして来ておりました。

どうも起床時にノドがスッキリこない、家内に言わせると夜中に何度も咳をしているとの話を聞きますと、肺ガンか咽喉ガンの前兆ではないかななどと、無駄な気苦労だとは思いつながら、又しても今回の禁煙新年84を迎えた訳であります。この月報が皆様の御手許に届きます頃は実行後数週間で最もキツイ時期を迎えている筈であります。

東南アジアに初めて 勤務して

オブザーバー

日本貿易振興会

所長 井手 俊弘

早いもので当地に着任して4カ月が経過致しました。寒い所はマイナス40度近くまで下るカナダ北部に勤務した経験もあり、余り苦にはありませんが、矢張り連日30度を越す日が1年中続く気候に慣れ、10年余殆んど中断していたゴルフにも、何とか皆様のご迷惑にならない程度に戻りたいという気持ちの毎日でしたが、気候にもやや慣れて来、ゴルフの方は半ば諦めの境地に至り

(とはいえ、1週間にBB2回連続というのはショックでした)、これから数年間皆様にお附合いを願う段階に入りましたが、よろしくお願い致します。

当地に着任にして驚きましたのは、前任者とPRエージェントの策謀により、中国語(マンダリン)の専門家ということにされており、30年前に学んだ中国語をたまには話さざるを得ない状況になっていることで、これは心を入替えて(俗な表現では“ふんどし”のひもを締め直して)、

中国語の実用化の必要に迫られて来たことです。従って、シンガポール政府の政策にもマッチするよう、何とか「スピーク・マンダリン」が出来るよう努力したいと考えております。

ジェットロは、この10年来輸出振興と並行して輸入振興の方向にも事業を拡大して来ましたが、さらに“テクニカル・トランスファー”の仕事のウェイトが増えて来ています。

とくにASEANに対しては、80年秋に提唱された「通産大臣ドクトリン」に基づきASEAN諸国を対象に「発展途上国貿易産業振興協力事業」を開始しており、シンガポールを除いた4カ国については、すでにかんがりの成果を挙げつつあります。この事業は大きく三つに分けられ、①現地の中小企業育成のための事業②ASEAN各国の製品輸出の拡大に協力する事業③エネルギー技術普及事業の三つとなり、各国政府の要望を十分とり入れた形で仕事が進められております。シンガポールについても、この事業が50年度からスタートするものと予想されますが、JOCII会員の各社の皆様にアドバイスやご協力をお願いする機会も増えると考えられ、従来にも増してご協力をお願いする次第です。

新年雑感

オブザーバー

在シンガポール日本国大使館
一等書記官 片山 登喜男

シンガポールに赴任して以来、早くも足掛け4年になる。早くも帰国の準備というわけではないが、「し残した事をなんとか…」とつい思う。

着任以来、商工会議所では広報委員会で本誌の編集にも携わらせて頂いて来た。この委員会でし残した事があるので、この機会を借りて責任の一端を果させて頂きたいと思う。

それは、デバン・ナイア大統領が就任後間もなく行われた日本企業視察の事である。これは非公式なものではあったが、やはり当商工会議所としては記録に留めるべき出来事ではなかったかと思うので、ここにご視察の極く概要と私の感想を記させて頂きたいと思う。

デバン・ナイア氏が第3代大統領に就任されたのが81年10月12日であった。翌82年の4月に大統領府から大使宛に、大統領が日本企業を非公式に訪問したいのでアレンジしてほしい旨の依頼があり、早速先方の希望に従って次のような日程を作成した。

4月26日 横河電機

27日 松下電子、ジャパン・メ
ディカル・サプライ

28日 日立電子部品

29日 シンガポール・タイム
岡本（シンガポール）

非公式訪問とはいえ、準備の過程では、お迎えの仕方、席の配置、食事の事、国旗掲場、植樹の依頼等それぞれの企業の方々といろいろ細かく相談をしたが、大変円滑に全てが取り行われ、ほっとしたことを記憶している。

このご視察で私は大変貴重な経験をさせて頂いたわけであるが、同時に意外な事も経験した。

当日の服装について、大統領府の指示は、“Lounge suit without tie”であったが、中島大使（当時）もこれにはびっくりされとりあえずネクタイもされていかれた。ところが当日、大統領は正に Lounge suit（サファリ風のものであったが）にネクタイなしで来られたので、以後大使もネクタイなしで同行された。また、大統領は実に気さくに労働者に話しかけられ、激励された。後で、聞いたところでは、この大統領のご視察は労働者の士気を大いに高

揚したとのことであった。

以上、年頭所感としては大変ふさわしくないものとなってしまったが、日「シ」関係も更に新しい進展を模索すべき時期にあると思われ、今年は、ここ数年の動きを改めて自分なりに整理し、新しい日・「シ」関係について考えてみたいと思っている。

地下鉄とMRT

大林組
花嶋 晴道

はしがき

世界的不況の最中にもかかわらず、シンガポールはホテル、オフィスビル、ショッピングセンター、公営住宅、民間住宅と大変な建設ブームでシンガポールの経済成長の主役をはたしております。しかし、このブームも2～3年内には落着き次の目玉はMRT（地下鉄）建設となります。

MRT計画もこの世界的不況に合わせて、計画を早めて発注を行い、予算よりも相当安く成約されつつあります。シンガポール政府のスマートさにはただただ感心いたします。

現在話題のMRTについて皆様も関心をお持ちと思いますので地下鉄メモとして記述させていただきます。

日本で初めて地下鉄が開通したのは、東京の上野～浅草間で1927（昭和2）年、1933（昭和8）年に大阪、1957（昭和32）年に名古屋、1958（昭和44）年に神戸、1971（昭和46）年に札幌、1972（昭和47）年に横浜、1981（昭和56）年に京都と福岡等と営業を始め、1985（昭和60）年度開業をめざして仙台でも建設中です。

海外に目を向けると1863年、今から120年前にロンドン、これは当初蒸気機関車けん引であった様です。それはともかく、その後ヨーロッパおよびアメリカの大都市を中心に続々と開業しました。近年は日本以外のアジアの諸都市（開業順に北京、ピョンヤン、ソウル、香港、天津）も目立ちます。そして現在では、ユーラシア、北アメリカ、南アメリカ、アフリカ、オーストラリアの五大陸のうちアフリカを除く四大陸の計70都市に地下鉄が走っています。

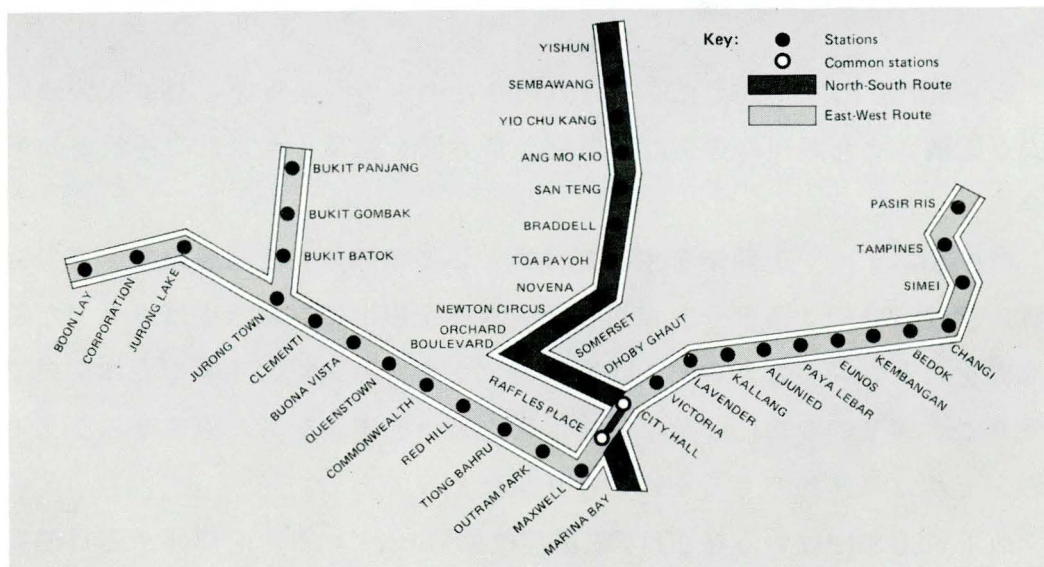
今、又シンガポールも M R T に着手し、1988（昭和63）年には一部開通を予定しております。

シンガポールの M R T (Mass Rapid Transit)

急速に発展して行く近代都市国家シンガポールは、1967年の独立以来、多数の住宅団地ニュータウンの建設、ジュロン等の工業地帯の開発等の都市計画の一環として最も効率が良く、信頼性の高い高速、大量の旅客輸送のシステムを検討してきた。

その結果、標準軌条（新幹線と同じ巾のレール）を走る地下鉄タイプ（第三軌条から電源をとる）の電車システム（M R T）でニュータウンと中央ビジネス街（C B D）を結び、補助にバスを用いる方式が最も有効であると結論が出て、シンガポール政府は1980年には M R T 準備局(PMRTA)を、更に1983年10月には PMRTA を発展させた M R T 公社(MRTC)を発足させ、M R T の計画、建設、運営に全責任、全権限をもって当たらせることにした。

この M R T 路線は Pasir Ris から Boon Lay までの東西線と Yishun



から Marina Bay までの南北線の2線から成り、総延長66.8 Kmの全線が完成した暁には殆んどのニュータウンを結び、沿線1 Km 以内の範囲にシンガポール全人口の50%以上が住むことになり、沿線42の駅からは毎日100万人以上の乗客が M R T を利用して住宅地から、C B D、工業地帯へとより快適な通勤が出来るようになります。

総工費約 50 億シンガポールドル（1982 年物価水準）で計画されたこの事業は 2 期に分けて発注され 1988 年に開業予定の第一期工事では総延長 66.8Km（うち地下鉄部分 20.4Km）のうち 28Km（同 16Km）の南北線の大部分と東西線のうち C B D 内の部分が建設される予定である。MRTC 当局はこの M R T は世界各地から最新の技術を集めて、自動集改札システム、運行システム、中央制御システム、冷房システム、スライデングドア等の設備をもつ最も近代的な交通システムとしたいと計画している。

地下鉄とは

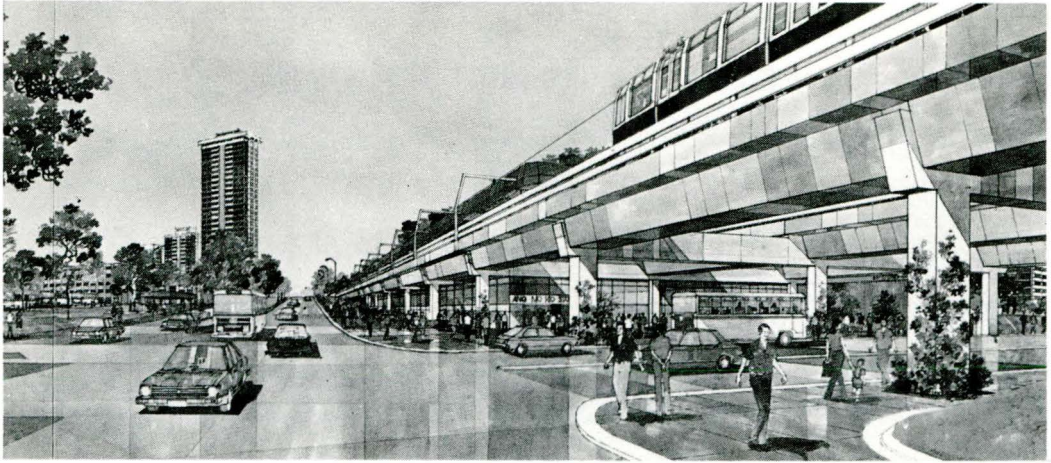
「地下鉄」を「広辞苑」でひいてみると、それは地下鉄道の略称であると書いたあとに、「地下にトンネルを掘って敷設した鉄道」さらに「1863 年ロンドンで初めて設けられ、わが国では昭和 2 年浅草・上野間に初めて開通」との説明を加えている。

俗に地下鉄と呼ばれる高速電車（Rapid Transit）の中に地表に敷設された線路も走る事例はいくつか発見出来る。又、地表に建設された高架橋上を疾走する地下鉄車両を目にする機会は、かなり多いといえるだろう。

地下鉄が地下に閉塞された存在とは限らないという事実を、日本人公衆に広く認識させた最初の事例は、新橋―渋谷間を開業した東京高速鉄道の場合であった。

渋谷駅は、デパート開業を主要な目的として建設された高層建築（東急百貨店、東横店）の 3 階部分を専用した。地表を眼下に見おろすばかりでなく、地表を走り、又かなりの部分が高架橋でさえある国電山手線を立体交差で乗りこす構造のゆえに、地下鉄とは何かという定義を考え直させるうえで、それは具体的なきっかけになり得たわけである。

地下鉄道と呼ばれる存在は、都市部に位置し、トンネルを構築する目的も、山にトンネルを掘って自然克服の手段としてのそれでなく、地表に鉄道を建設しようとするれば人為的な障害が多いため、それを避ける目的から地下にトンネルを建設した場合をさすと語義を限定するべきであろう。



Ang Mo Kio Station

1863 年、ロンドンで開業した世界最初の地下鉄の場合には、市街の外部にターミナルを設けた蒸気動力による鉄道が、市街内部への乗入れに際して、用地取得にかかわるトラブルを回避する目的から、線路をトンネル内に設置する方式を用いたわけである。

それとは別に、大英帝国の繁栄に伴う経済活動の活発化によって、市街地内部で道路の混雑が激化し、都市の機能を損う事態を憂慮して、市民の側からも地下鉄道の建設が構想された結果が地下鉄（Metropolitan Railway）の開業を促した。世界最初の地下鉄道は自社の車両を運転するほか、ロンドンに集中する都市間連絡鉄道と線路を連結し、市街地内部への乗入れをなしたのである。

今日、日本の地下鉄網運営で運用の妙を発揮する事例と称される 2 企業以上の鉄道を直通する運転は、その原型がロンドンの当初より存在したことになる。メトロポリタン鉄道が建設した地下鉄道は、すでに述べたように Underground Railway と俗称されていた。

ついでに地下鉄の俗称について和英辞典をひいてみると、地下鉄道の訳語では Under ground 又は Tube、米語では Subway との答えが示される。仏和辞典をひいてみると、Metro はパリ地下鉄の愛称だが、語源は Metropolitan に求められるとの答えを目にする。次は、ドイツに目を転じてみよう。ドイツでは地下鉄はウーバーン（U-Bahn）と呼ばれる場合が多い、Untergrundbahn の略称である。ドイツ語としての

Untergrundは地下を意味している。

ロンドン地下鉄の建設では、市街内部に既設された道路の地下を活用し、一時的に人馬の交通を遮断のうえ、堀割を造ってトンネルを造りつけ、その天井部分の完成後、埋め戻し作業によって道路を復旧するカット・アンド・カバー（Cut and Cover＝開削）工法が用いられた。この方式は、以後、世界各地での地下鉄道建設に広く用いられ、わが国の場合には、いまでもそれが主体である。相対的にはあるが、トンネル建設費を低く押えられるがゆえに、それは用いられたのであろう。反面、その工事中はかなりの期間にわたって道路の交通を妨害するうえ、堀割構築に着手する段階で、トンネル側壁部分に土留用の鋼矢板類を打込む作業が、騒音公害、振動公害を引きおこす原因になるマイナス効果がある。

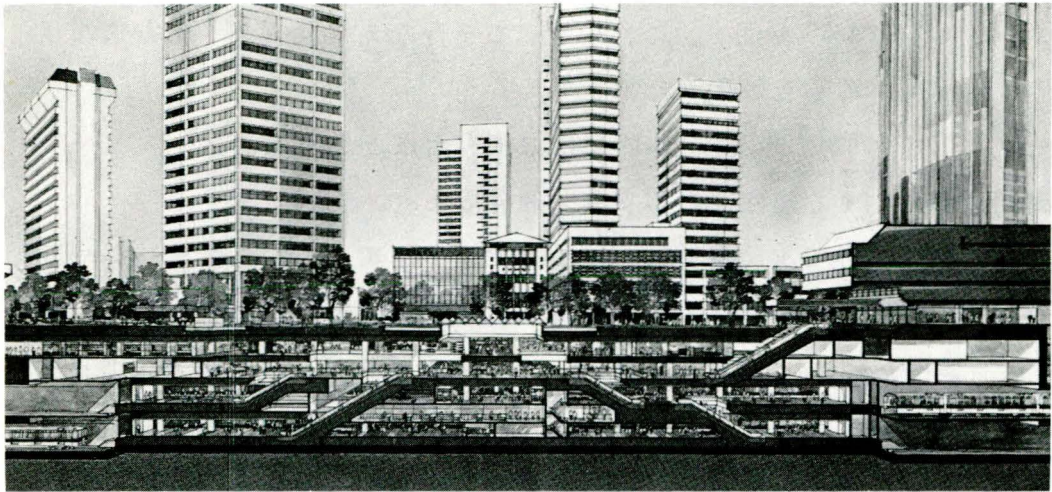
今回のシンガポールMRTの建設には市街地では、地下駅舎部分以外は主にシールド工法が用いられ堀割工法をさけている。

シールド工法はスチールで出来たシールド（トンネルの大きさよりやや大きなチューブ、長さは5～7m）をジャッキ（150～250トン）十数個を交互に使用して土中に押込みトンネルを堀削して、シールドの進行につれてセグメント（コンクリート又は鋳鉄製）を組立てトンネル断面を維持する工法である。

電車の実用化は1880年代を待たねばならなかったため初期のロンドン、メトロポリタン鉄道は運転動力を蒸気機関車に依存せざるを得なかった。それゆえ、全区間をトンネルにすると、煤煙と熱がトンネル内に充満し、乗務員、乗客の双方とも、大変な目にあってしまう。そのため、排煙処理装置を備えた特殊な蒸気機関車を用いたが、100%の効果は期待出来なかったため、随所に明りとりをかねた煙ぬきを設ける対策を施した。また蒸気機関車は、この青天井区間で集中的に焚火するようにしていたという。

日本はもとより、世界各地の例をみていくと、線路が地表あるいは高架の方式と全く無縁という地下鉄は、むしろ例外といえそうである。開業して日が浅く、路線が市街地中央より限定されている間は、文字通りの地下

鉄であったとしても、市街地周辺部へと延長するにつれて、地下鉄が地下と決別するのが、世界的な傾向であるように思われる。



City Hall Station

地下鉄固有の技術とは

地下を走るだけに、最もこわいのは火災である。米国では最新鋭の B A R T (サンフランシスコ) や WMATA (ワシントン D C) が火事を出しているが、日本では幸い大事に至っていない。これは開業以来の安全設計と厳しすぎるぐらいの運輸省の指導によるものである。

香港では地下鉄の車両のシートは防火の観点よりステンレス製となっている。

火災に次いで恐いのは、何らかの原因で駅間のトンネル部分に長時間閉じ込められる事故であろう。

駅間距離の短い初期の地下鉄の場合は、次駅までたどりつける確率がきわめて高いが最近の路線ではそうでもない。特に河底をくぐる場合などでは駅間が深くなっていて、しかも最高速度の制限でブレーキをかけながら河底に向かうという運転をしているので、ここで停電になれば絶対に脱出不可能である。このようなところは、むしろ特例として高速で通過してまう方が安全面でもサービス面でも省エネルギーの観点からも得策である。

トンネル内という環境から、心理的な面も含めて居住性はどうしても悪くなりがちであるが特に、騒音の点では、最近では主電動機をばね上にあること

で著しい改善がなされ、さらに空気ばね台車、レールの早期交換等で静かになった。まだ改善の余地があるのがコンプレッサーの静粛化、軸ばねのゴム化、ロングレール化で、これらすべてを行なえばゴムタイヤ方式の存在価値が消滅するくらい静かな地下鉄になろう。

次は空気の問題である。具体的には温度、湿度と風である。トンネル内が高温、多湿化する傾向はどこでも共通である。

まず日本では冬でも暖房装置が全くなくてすんでいるが夏はやはり冷房が欲しい。シンガポールのMRTでは駅と電車を冷房する計画になつている。

もう一つ大きな問題は風である。いわゆるピストン効果で列車に押し出された空気が風となるが、これはトンネル断面と車両断面との比が小さいほど強いはずである、列車速度の違いにもよるが、空気抜きの有無が大きく効いている。本来は駅ホームの両端に大口径の煙突のようなものをつけて、列車風の逃げ道を作るべきである。

アメリカ映画「七年目の浮気」で地下鉄からの風でマリリンモンローのスカートがめくれる現象も地下で丁度列車がトンネルから抜け出した瞬間ではなかったかと想像されます。

しばしば加速、減速を繰返す地下鉄用車両では、列車重量の軽減と、ブレーキ時のエネルギー回収で、大巾に省エネルギー性を向上させることが出来る。それぞれに対応して車両の軽量化と回生ブレーキの採用が近年盛んであるがこれらがすべてではない。省エネルギー対策としてもっとも、単純明快なのは、客の量に応じて編成長を変えることであり、路線設計に際しては駅を高い位置に設けることである。

運動エネルギーの回収は、地下鉄車両では電機子チョップを用いるのが世界的に標準との観を呈している。

省エネルギー特性の点で、ぜひ注意しなければならないのは、ゴムタイヤ車両は走行抵抗が大きいため、著しく不利だということである。

回生車を投入して、いくら電車側で回生能力を高めても、返された電力を消費する負荷がないとカラ振りになつてしまう。このために一つの方法としては、変電所にインバータを設置し、直流側で全体として電力が余った

場合には、もとの交流側にまで戻すことが行われている。

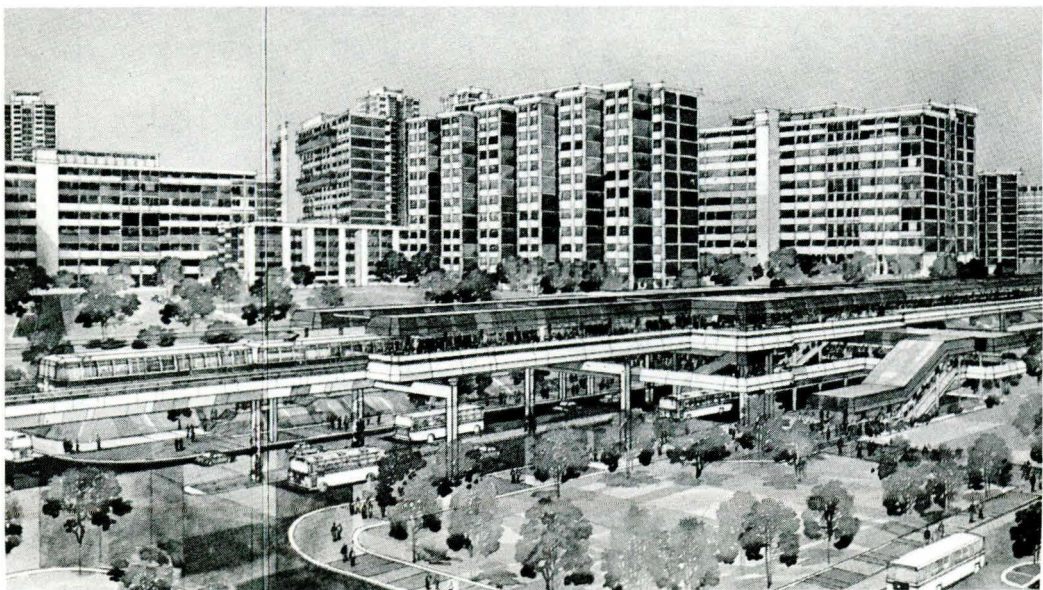
地下鉄のサービスの面から言うと、何といても乗降や乗換えを便利にすることが、喜んで利用してもらう鍵である。

駅は出来るだけ浅く作るとともに、乗換えはホームを横切るだけという原則にできる限り忠実でありたい。わかりにくい上に長く歩かされるのは地下鉄としては失格である。

車両面では 非常にレベルが上がっているがさらに静かにしたい。これには二つの方向があろう。一つは粘着性能の向上で車輪の摩耗によるフラットの絶滅を図ることである。これでカタカタ、ゴロゴロという走行音はなくなる。 もう一つは梶取り台車の開発で、カーブでフランジが当たるのを防止することである。これにはいくつかの方法があり南アフリカではすでに数千両にこの台車が用いられ、走行抵抗減少、フランジ摩耗防止、レールの長寿命化に著効を挙げている。これで急カーブ走行時の軋み音はなくなる。

次に高速化であろう。エスカレーターの速度と電車の加速度は日本のものは世界最低のレベルにある。それだけ安全性を重視しているという見方もあるが、やはり速いに越したことはない。速くて安全な工夫をして、日本の場合も世界の水準までには持っていきたい。

高粘着、高加減速車両として地下鉄向きなのは、インバータと誘導機を用いたものが優れている様である。



Clementi Station

まとめ

都市の発展は都市の立体化を招来し、都市と郊外、都市と都市との連繋もさらに緊密度を高める、これにより人々の日常生活における移動の方法も、道路、路面軌道、都市高速鉄道など、そして近時は、モノレール、新交通システム、当然のことながらバス、自家用車、タクシーなどの利用度も高い。ところが、路面交通には渋滞の問題もあり、駐車場も充分とはいがたい状況もある。

そうしたことから、大量輸送機関としての都市高速鉄道が、その迅速性、安全性、エネルギー節減を含めての経済性などからますます利用される状況にある。

ここシンガポールも MRT に着手し、近代都市としての機能をそなえてますますの発展を期待しながら地下鉄雑記を終わります。

(参考文献、地下鉄ガイド、MRTC パンフレット、交通論 12 章)

GOLF

“感激の一打”

会社 熊谷組

氏名 古田 孝行 H'cap 4

SICC プリント コースの 1 番で

心臓はドキドキ、足はブルブル、顔はひきつり、これは...
若しおすると空振りするかも、緊張の一振り、当たった！だが、
球は右、一オ新井規矩雄プロはフェアウェイ中央270ヤド
さすが！このショット、このゲーム、一生忘れないであろう。

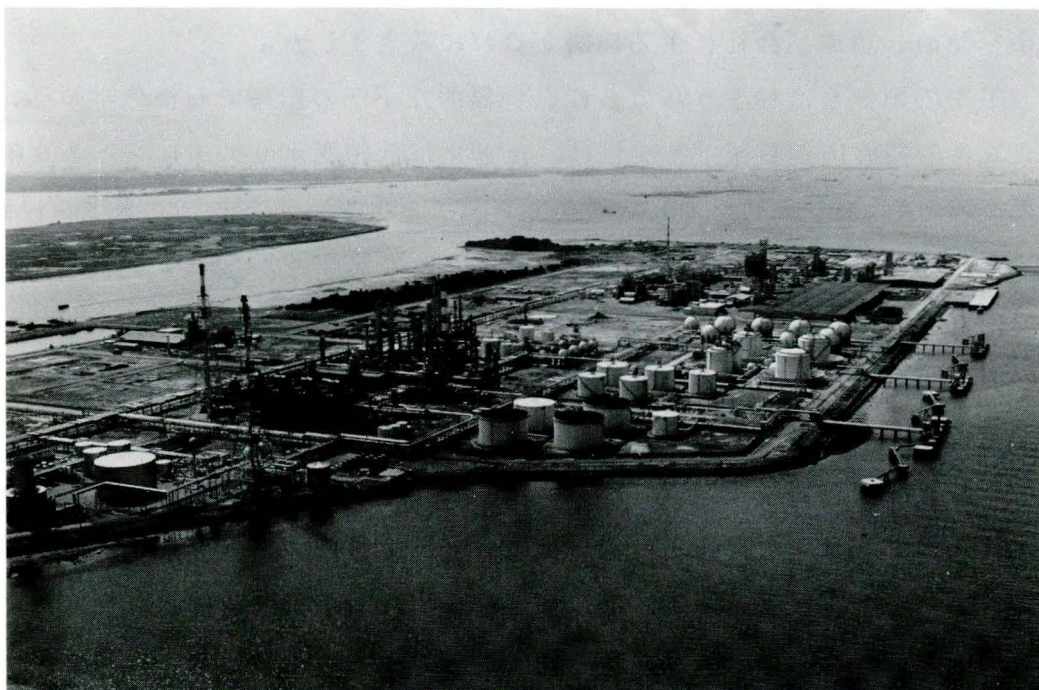
シンガポール石油化学 コンプレックスについて

Petrochemical Corporation of Singapore (Pte) Ltd.

泉井 彬

1. 経緯

タイガーバウム・ガーデンの孔子像の横の階段を登りつめて右へ廻ったところから、像の肩越しに西南西の方を見ますと、遠くに左の端に緑の林を持つ、銀色の塔と白いタンクの建つ島が見えます。それがシンガポール石油化学コンプレックスのあるメルbau島（PULAU AYER MERBAU。漢字では亜逸美宝島）です。この島はまたジュロン・ヒルパークの展望台からも、シンガポール・リフィニング・カンパニー（S R C）の白線の入った黒いタンク群越しに見えています。



シンガポール石油化学計画の発端は、1971年に、シンガポール政府が自国の主要産品である石油製品の付加価値を高めるために石油化学工業をおこすことを考え、住友化学工業（株）に協力を依頼したことにさかのぼります。

同社は、シンガポール国への経済協力、技術移転、東南アジアへの石化製品の安定的供給、世界第三位の石油精製基地という恵まれた立地条件などの見地から、この計画の推進に協力することとし、その実現に努力を続けてきました。1977年に至り、東南アジアにおけるこの計画の重要性が日本政府に認められ、同計画において原料の製造、供給を担当するいわゆる中核会社（センターカンパニー）に、海外経済協力基金が出資のうえ、石油化学業界があげて参加するナショナルプロジェクトとして推進することが決められました。

これを受けて、同年8月中旬に中核会社ペトロケミカル・コーポレーション・オブ・シンガポール（P C S）の設立をみました。

79年に第二次石油ショックがありましたが、80年には、中核会社の製品から更に付加価値の高い製品を作る、いわゆる誘導品会社が次々と設立されるとともに、同年7月にP C Sがメルバウ島で起工式を行い建設工事を始め、誘導品会社による建設がこれに続きました。

工事の順調な進捗とうらはらに、世界的な不況の影響で石油化学製品は80年の初め頃から値下りを続け、たとえば低密度ポリエチレンは79年末ごろの約1,100米ドル／トン（O I F、アセアン）から660米ドルに値下りし、エチレングリコールでは同じく730米ドルから440米ドルまでになるほどでした。このため折角完成した工場で生産をはじめても巨額の損失が避けられないという深刻なる事態となり、しかも日本の石油化学工業各社は自らの不況対策に精一杯という状態でした。

この状況に対処して、シンガポール政府はP C Sの金利負担軽減のため、同社に対する日シ両株主からの融資金各279億円、計558億円相当の出資金への転換などを日本政府に提案しました。この問題は、昨年9月、日本側としては海外経済協力基金が45億8千万円を、残りを民間でそれぞれ追加出資するとの日本政府の決定により解決をみました。

本件の決着に加えて、石油化学製品の価格がようやく上昇に転じたこともあって、昨年10月、本コンプレックスのスタート時期が本年2月中旬と決められ、目下2月18日のオイルインを目標にいろいろな準備作業が順調に進めら

れています。

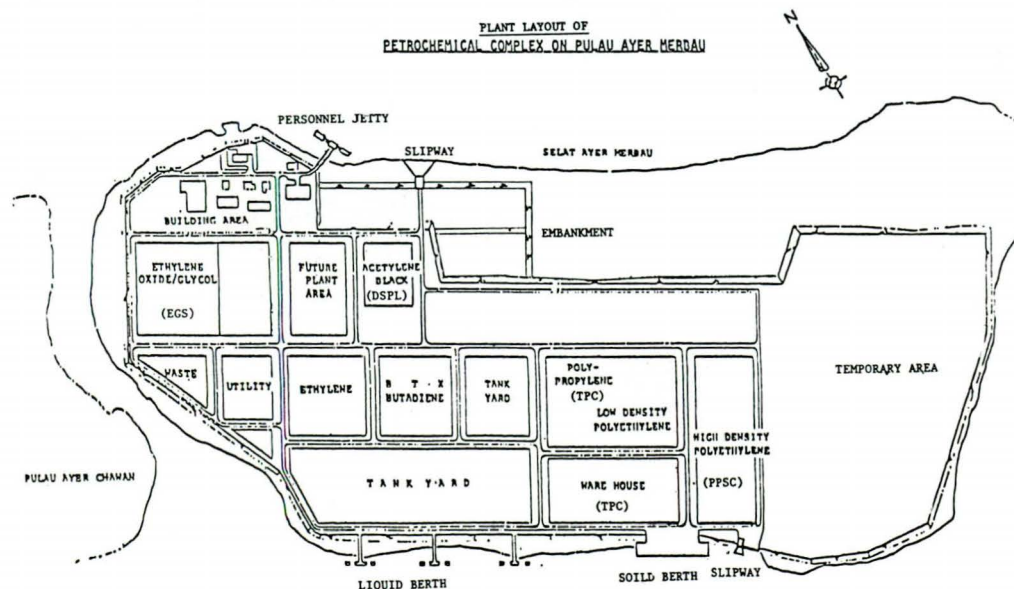
2 プラントレイアウト

メルバウ島は、もと干潮時には一つにつながり、満潮時には四つか五つに分かれる島で、マレー系の漁民が住んでいたといわれます。

用地造成工事は1976年央にはじまり、高い部分（最高地点16米）を削り、その切土と南側の海から吹き揚げた砂によって1977年末に完成しました。造成後の島の大きさは、東西約2 Km、南北（最大部分で）約1 Km、面積約120ヘクタール（約40万坪）で、そのうち西側の90ヘクタールをジュロン・タウン・コーポレーションから賃借してプロジェクトに使用し、残りの30ヘクタールは建設工事用に臨時に無償使用しています。

第1図にみられるようにプラントのレイアウトに当っては、島の東西の中心線に沿って工場を置き、南側は海が深いので原料、製品の荷役用の棧橋、岸壁を作り、その近くにタンク、倉庫を配しています。一方、海の浅い島の北側には、人員の出入りのための棧橋を設けています。

図 1



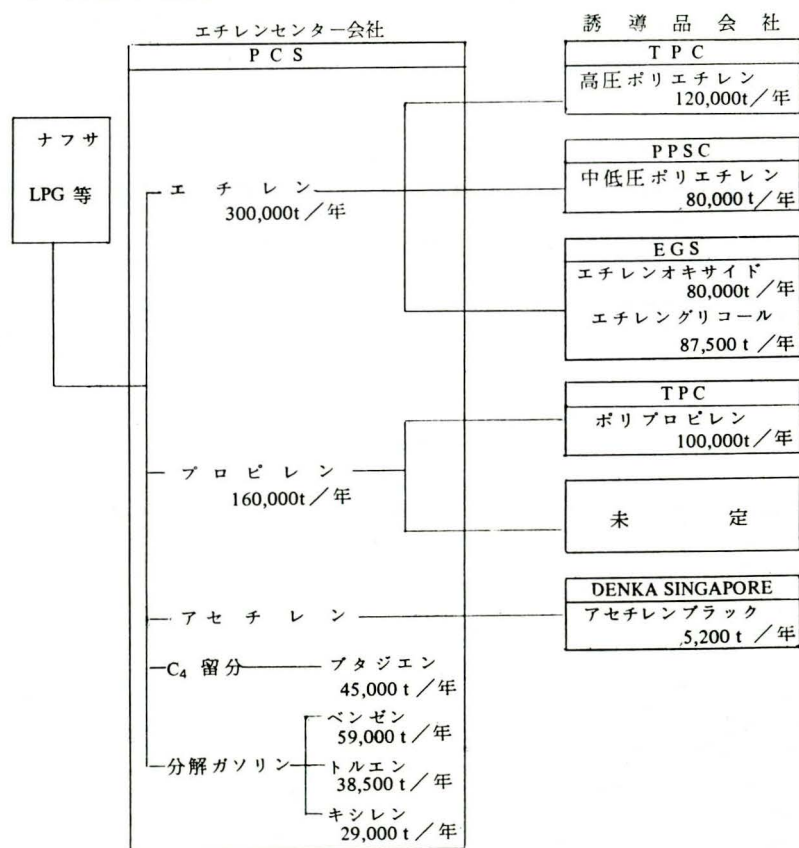
また、製品、副原料などのトラックによる輸送も予定されますので、島の南北にトラックを乗せるフラットバージ用のスリップウェイを各1基設けています。

島全体としては、工場間にかなり保安距離をとっていますので、日本の同種のコンビナートよりもゆったりした感じがします。

3. 各社のプロフィール

このコンプレックスの構成会社の概要および製品の系統図はそれぞれ表1および図2のとおりですが、以下少し説明を加えます。

(図2) 製品系統図



(1) P C S

当コンプレックスの中核会社で、コンプレックス内で次の三つの役割りを果たします。

①製造および誘導品会社への原料供給

エチレン、ブタジエンおよびB T Xの3プラントで製造を行います。

エチレンプラントの規模はそのエチレンの年産量で表示され、エチレン30万トンプラントは国際的な標準大型設備です。

ナフサやLPGはエチレンプラントの分解炉の加熱管中で水蒸気とともに加熱されて分解し、図2にあるエチレン、プロピレン、アセチレン、C₄留分（炭素原子四つをもった炭素と水素の化合物）熱分解ガスolinなどの混合したガスになります。このガスが、急冷、圧縮、冷却、精溜などの複雑なプロセスを経て、エチレンプラントでエチレン、プロピレン、アセチレンが、ブタジエンが同名のプラントで、ベンゼン等がそれら頭文字をとったBTXプラントでそれぞれ製造されます。製造技術について、住友化学等の技術援助を受けています。

図示のように、PCSの製品の大部分は誘導品会社に供給され、それ以外のものは同社がアセアン地域を中心に自ら販売します。同地域に消費需要のないものは日本での販売が予定されています。

PCSの製造面における特色としては次のものをあげることができます。

ア. 原料選択の巾の広いこと

ナフサを主原料とするエチレンプラントでは、普通LPGをそう多く併用できませんが、PCSのプラントではLPGを最高70%まで混入して使用することができます。従って、ナフサ、LPGの価格、所要の製品に応じて両者の使用比率を変えて効率的な運転をすることができます。また、LPGとしては、日本では一般に使われないようなものも使うことができるようになっています。

イ. 省エネルギー

エチレンプラントの設計段階から、廃熱回収など省エネ思想を大巾にとり入れていますので、世界の最高レベルのエネルギー効率を達成しています。

ウ. コンピューターコントロール

全てのプラントの運転にコンピューターによる制御が広範に採用されているほか、現場のデータが直接本島内の大型コンピューター

に送られ、経営管理に利用されるシステムになっています。

②用役の提供

P C S の第二の役割に、島内各社への用水、冷却用海水、純水、蒸気、計装用空気など、いわゆるユーティリティーズの供給があります。電力だけは法律上の制約から、P U B が島内各社に直接供給しています。

なお、電力、用水のケーブル、配管は、タンジョン・ペンジュールから海底を通つてS R C のメルリマウ島に至り、同島の地表を走って同島とメルバウ島間の橋によってコンプレックスに至っています。

③共通サービスの提供

第三の役割として、P C S は、本島との間の通勤、連絡用フェリー、メルバウ島内の消防、警備、岸壁・道路の維持、一部の廃棄物処理など、各社で個別にやるよりはコンプレックスとして一括して行う方が効率的なサービスを各社に提供しています。

公害の防止、安全には、各社とともにとくに配慮し、一部の面では日本よりも厳しい当地の規制も十分クリアできるよう措置しています。

P C S としては、これらの仕事を、安く、安定的に、かつ各社公平に行うべく努力しています。

(2) ザ・ポリオレフィン・カンパニー・シンガポール (T P C)

P C S の製品の最大のユーザーで、低密度ポリエチレン、E V A、ポリプロピレンを生産します。

低密度ポリエチレンの製造技術は、住友化学からライセンスされたもので、2,000気圧をこえる高圧下でエチレンを重合させてポリエチレンとします。ちなみに、大砲を発射するときの砲身内の圧力は1,200気圧程度といわれています。

製品のポリエチレンは、比較的密度が低いので、低密度ポリエチレン (Low Density Polyethylene, LDPE) といわれ、またその製法の故に高圧法ポリエチレンとも呼ばれます。

LDPEは柔軟で透明性がよく、フィルムに最も多く (東南アジア

では用途の約 80%) 使われます。フィルムというと写真のフィルムを想像される方がときにあります。薄い膜のことで、たとえば当地のゴルフ場のロッカールームにある透明な袋は LDPE でできています。

表 1 で用途の一つとして示されているラミネーションとは、薄いフィルムを何かにコーティングすることで、牛乳の紙パックは LDPE が紙の両面にコーティングされて、紙に耐水性を与えています。

TPC のポリエチレンプラントでは、エチレンと酢酸ビニルと一緒に重合させていわゆる EVA を切換え生産することもできます。EVA は、発泡成型してビーチサンダルに主として使用されます。

一方、同社のポリプロピレンの製造にも、日本の内外にライセンスされている住友化学の最新の技術を採用しており、工場は能力の割りに非常にコンパクトです。

ポリプロピレンもやはりフィルムに一番多く (約 40%) 使われますが、LDPE フィルムより光沢があり、腰の強いものとなります。身近かには、食品包装、インスタントラーメンの袋、タバコの外装などにみることができます。またヤーンとは細い帯状のもので、これを織って米袋など Woven bag として用いられます。

これらの樹脂は、いずれも同社からは錠剤のような形をした、いわゆるペレットとして出荷され、加工業者のもとでフィルム、成型品など最終製品に加工されます。

従来、日本製のポリエチレン、ポリプロピレンは、東南アジア市場の 20~30% を占め、高品質、納期の正確さなどから常に欧米品より高い価格を維持してきました。TPC としては日本品と同じ製品品質を確保し、一般的に価格オリエンテッドな東南アジア市場にあって、高品質とユーザーの新用途・新製品開発や問題解決へのキメ細かいサービスによって、日本品なみの価格を維持しつつ販路を拡げることとしています。

このために、同社はメルバウ島内に整った加工試験設備をもっており、すでにユーザーへの技術指導、学界との協力などを行い好評を得ています。

(表 1) シンガポール石油化学コンプレックス構成会社概要

会社名 (略称)〔設立年月日〕	授権資本金 (払込資本金)	株 主、出 資 比 率	役 付 取 締 役	総投資額	従業員 (うち外国人)	製 品 (用 途)
Petrochemical Corporation of Singapore (Private) Limited (PCS) (1977, 8, 10)	百万 S\$ 200 (182.52)	日本シンガポール石油化学(株): 50 シンガポール政府, DBS: : 50	会長 J.Y.M.Pillay 副会長 土方 武 社長 小見山大輔	約 億 円 1,174	451 (70)	エチレン、プロピレン、アセチレン (誘 導品会社原料) プタジエン (合 成ゴム)、ベンゼン (各種化学 製品)、トルエン、キシレン(溶 剤) 低密度ポリエチレン (フィルム、 ラミネーション、成型品)、EVA (ビーチサンダル)、ポリプロピ レン (フィルム、ヤーン、成型品)
The Polyolofin Company (Singapore) Pte Ltd (TPC) (1980, 5, 23)	120 (109.18)	日本シンガポール ポリオレフィン (株) : 70 シンガポール政府, DBS : 30	会長 Ngiam Tong Dow 社長 森川 稔	480	234 (42)	高密度ポリエチレン (成型品、 フィルム、ヤーン)
Phillips Petroleum Singapore Chemicals (Private) Limited (PPSC) (1980, 4, 24)	168 (111)	Phillips Petroleum International Corporation : 60 シンガポール政府, DBS : 30 住友化学工業 (株) : 10	会長 Yeo Seng Teck 副会長 森本 彰二 社長 J.D.Holdsworth	210	100 (4)	アセチレンブラック (乾電池)
Denka Singapore Privated Limited (DSPL) (1980, 9, 20)	10 (10)	電気化学工業 (株) : 80 Temasek Holdings (Private) Limited : 20	会長 篠原 晃 社長 賀来 守一	28	40 (9)	エチレンオキサイド (合成洗剤) エチレングリコール (ポリエステル 繊維)
Ethylene Glycols (Singapore) Private Limited (EGS) (1982, 4, 14)	190 (152.5)	日本シンガポール エチレングリコール (株) : 30 シンガポール政府 : 50 Shell Eastern Petroleum (Pte) Ltd : 20	会長 Hsu Tse Kuang 総支配人 珠渕俊茲	220	44 (11)	

(3) デンカ・シンガポール (DSPL)

エチレンプラントでは、アセチレンは水素を添加してエチレンとし、アセチレンとしては単独にとり出さないのがふつうですが、POSのプラントではこれを作ってDSPLに供給します。

DSPLでは、電気化学工業(株)のプロセスによって、アセチレンを熱分解してアセチレンブラックを作ります。

製品は純粋な炭素の微粉末で、吸液性が高いので乾電池の合剤(電極のまわりの黒い粉)に使われます。タイヤなどに使われるふつうのカーボンブラックより純度、導電性の面で高品質ですので、導電性ゴム、プラスチックにも用いられます。

同社で生産されるアセチレンブラックは、シンガポール、インドネシア、マレーシアの乾電池メーカーに供給されることになっています。

(4) フィリップス・ペトロリウム・シンガポール・ケミカルズ(PPSC)

世界的に有名なフィリップス法Loop Reactor(環状反応器)でポリエチレンを生産します。製名は前出の低密度ポリエチレンより密度が高いので、高密度ポリエチレン(High Density Polyethylene, HDPE)といわれ、反応圧力が20~30気圧と比較的低いことから中低圧法ポリエチレンとも云われます。

製品は低密度ポリエチレンより不透明で、やや硬く、強度にすぐれ、ポリプロピレンに似た性質をもっています。成型品に最も多く(50%強)使われ、フィルムにも用いられています。当地のスーパーマーケットでくれる買物袋はほとんどこれでできています。

当コンプレックス唯一の非日系企業ですが、“Growing Stronger Together”をモットーの一つとするなど、チーム・ワークのかん養に力を入れています。

現在の従業員100名中、外国人は4人、スタート・アップ時にも応援が5人増えるだけとのことで、ローカル化が進んでいるようです。販売を系列の別会社にまかせていることと、フィリップス社にとっては標準的なプロセスであることを考慮しても、その少人数の外国人による管

理には興味をひかれます。

(5) エチレングリコールス・シンガポール (EGS)

現在、工場を建設中で、反応器、大型の塔などは本年2月ごろ搬入、据付けられ、本年末完成の予定です。

Shell の最新技術を使用して、エチレンの部分酸化によりエチレンオキサイドを作り、これにさらに水を添加してエチレングリコールを製造します。

フル操業の場合、年産80,000トンのエチレンオキサイドのうち約10,000トンが合成洗剤の原料に使われ、残りの70,000トンがグリコールにされる予定です。東南アジアでは不凍液という用途がないので、エチレングリコールはすべてポリエステル繊維の原料とされる予定です。

同社では、エチレンの酸化用の酸素を空気の深冷分離によって作りますので、残った窒素を防爆シール用などにコンプレックス各社に供給することとなっており、すでに82年11月から供給をはじめています。従って、窒素については、同社がセンターカンパニーということができます。

昨年、日本側株主の再編を機に、同社では総投資額の金額を資本金でまかなうこととし、シンガポール政府の出資比率が50%に引き上げられました。

4. コンプレックスの運営と課題

当コンプレックスの各社が、世界中から製品の集まるアセアン、ホンコン、中国を主たる市場としてきびしい競争に伍していくためには、内には低コストを実現し、外には市場価格を下げることなく市場へ参入することが大切です。

誘導品各社にとっては、最大のコスト要因は勿論原料たるP O S製品の購入価格で、これはその製品の市場価格、P O Sにおけるコスト、誘導品の市場価格などを勘案のうえ、コンプレックスの構成会社が苦楽を共にするという考え方できめられることになるものと思われます。

P O Sとしては、大もとになる自らのコストを引下げるため、まず原料

の経済的な調達に最大の努力を払います。エチレンプラントでは、いろいろな製品を作るために、エチレンの生産量のおよそ3倍の原料（ナフサ・L P G）を消費します。現在、シンガポールの各製油所では年合計約250万トンのナフサと約50万トンのL P Gが製造されているとみられます。さらにこれらは国外からも輸入できますので、当面P C Sの必要量の確保に心配はありません。

問題は価格ですが、安く、しかも安定的に購入するために、世界第三位の石油精製基地という地の利を十分に活用して最善の方法を追求していくことになります。すでにメルバウ島と隣接するS R Cのメルリマウ島およびエッソのチャワン島の間にはそれぞれ原料輸送用のパイプが渡され、安定的で輸送コストの低い受け入れの一方途としての使用を待っています。

また、装置産業の場合、連続運転の確保がコスト引下げに非常に大切ですが、幸いシンガポールでは同国人のレベルが高いため技術の修得が早く、安定した運転が可能で、かなり早い時期に技術移転の実をあげ、ローカル化ができるものと期待されています。

一方、誘導品会社の製品に対するアセアン、ホンコン市場における需要は、G N P、生活レベルの上昇に伴い世界の平均レベル以上の伸びを示していくとみられます。また、スリランカ、バングラディッシュ、ビルマなどの西アジア、さらにはほう大な需要のある中国に近く、製品の輸送の便も良いことから誘導品の市場には大変恵まれているといえます。しかし85年後半には産油国からの一部製品の供給が始まると予想されますので、慎重にその対応策をとることが必要です。

関係製品の価格は、現在一服状態にあります。本年中は堅調に推移するとの予想が一般的です。

それでも本年はE G Sのプラントがまだ稼動していないため、P C Sのプラントは60%の低ロード運転となり、コスト高につながります。従って、前述の株主融資金の資本金への転換による金利負担の軽減があっても、なおかなりの赤字は避けられませんが、その額は、市場の好転により、昨年央ごろの予想よりは相当減少するとみられます。

今後、コンプレックスの構成各社は、それぞれに生産性の向上、高付加価値製品の開発、未利用溜分の活用などに不断の努力を続けてまいります。さらに、現在、誘導品会社の製造能力に比べてP C Sの製造能力に一部余裕がありますので、その活用もコンプレックス全体の競争力の一層の強化のために考えていかねばなりません。

今までもコンプレックスの各社は当会議所と会員の皆様に大変お世話になり、またご心配をおかけしました。この機会を借りまして厚く御礼申しあげますとともに、操業の開始後も製品のご使用をはじめ引続き暖いご支援を賜わりますようお願い申しあげます。

1983年第3四半期のシンガポール経済動向

～シンガポール経済の動き～

第3四半期のシンガポール経済成長率は7.9%の実質成長を達成して昨年同期の6.5%を上回った。今年1月から9月までの実質経済成長率は6.9%に上昇し、若し、今年第4四半期の成長率が7.5%に達すれば、今年全年の経済成長率は政府見通しの6～7%の上限を突破することの可能性が存在する。

シンガポール第3四半期の製造業投資約束額は3億5100万Sドルにのぼり、今年1～9月間の通算ではすでに15億Sドルに達した。

製造業は第3四半期に顕著な成績を示して、同部門は昨年第1四半期以来初めて成長を取り戻し、今年第3四半期には3.9%の実質成長率を達成した。製造業成長の原動力は電子工業、電気、石油と建設関連工業となった。アメリカ景気が引き続き強い回復基調にあり、消費者用電子製品の受注が増加している。昨年第3四半期以来減産していた石油も今年第3四半期には約5%の成長率を回復した。

金融、ビジネス・サービス業が依然として最大成長の推進力であってGDP成長の1/3に貢献し、通商、運輸通信部門は第3四半期のGDP成長率はそれぞれ11%と18%に貢献した。建設業は依然として、活気を示し、25.4%の高い成長率を示し、国内総生産の19%に貢献したが、四半期成長率が30%を割ったのは1981年第3四半期以来の事で建設活動に鈍化が見られた。

1. 生産

第3四半期の工業生産指数は前期比3.1%増、今年は第1四半期を除いて連続の成長となった。前年同期に比べると3.9%増、これは82年第1四半期以来、初めての成長であった。アメリカの経済が回復次第、製造業部門の成長に与える影響が大きい。

第3四半期の石油精製は前期比5.8%増、昨年同期比4.7%増加したが、

この主な要因は燃料油、ケロシン、ジェット機燃料など増産の結果である。

電子関連機械は第3四半期も引続き、順調に伸び、TV、ラジオ・カセット・プレーヤ、テープ・レコーダー、テレビ部品など海外需要の為、増産したため、昨年同期比12.5%増著しく改善された。

輸送機械は第3四半期の輸送装備、オイル・リグ工業の生産は第2四半期の生産水準を保持している。航空機用部品、航空サービスの増産にも拘らず、造・修船、オイル・リグの減産に相殺されたので、第3四半期の伸び率は昨同期比3.4%減少となった。

2 貿 易

シンガポール第3四半期の対外貿易は輸出は昨年同期比8.9%増、一方輸入も-0.1%にとどまった。

シンガポール今年1～9月の対外貿易は往復788億Sドルに達し、前年同期比0.2%増を記録した。今年に入って年初からの累計輸出入総額が前年同期を上回ったのはこれが初めてで、貿易の回復基調をはっきり示している。1月から9月までの累計では輸入が445億8080万Sドル、輸出は342億2850万Sドルであったが、貿易赤字は103億5430万Sドルとなり、前年同期の118億570万Sドルに比べ14億5140万Sドルに縮小した。

シンガポールの対外貿易回復を決定づけているのは何といたっても対アメリカ貿易で、1～9月までの対米往復貿易額は129億220万Sドルとなり、第2位のマレーシアを(124億8500万Sドル)追い越して、シンガポール最大の貿易相手国となった。

第3四半期の対日貿易は輸出依然不振であって、昨年同期比14.7%マイナを示し、輸入は0.3%増となった。

今年1～9月累計の対日往復貿易額112億5860万Sドルで貿易赤字は48億9440万Sドルとなり、前年同期の44億4210万Sドルに比べ拡大した。

3. 金 融

シンガポール第3四半期のM1は昨年同期比9.2%に伸びたが9月には通貨供給量の伸びが鈍化し、M1の伸び率は年率7%に下がった。

第3四半期の銀行貸出金は昨年同期比15.8%増順調に伸び、今年初めの7ヶ月間非銀行顧客向け銀行の貸出金は堅調な伸びを示し、残高は9月末には前月末に比べ3500万Sドル減少した。この減少は主に製造業、建築業、一般商業の貸出減少によるものであった。

非銀行顧客預金は昨年同期比17.3%に伸び、9月には非銀行顧客からの預金は年率26%と8月に比べやや高い伸び率を示した。9月中の2億8200万USドルの伸びはもっぱら海外顧客の預金によるもので、居住者からの預金は逆に減少した。

4. 観 光

観光事業も世界経済不景気の影響を受けて、今年の訪問客は第1四半期から第3四半期までともマイナ成長であった。第3四半期は昨年同期比-6.1%引続き不振であった。

今年9月の訪星客は23万76人で昨年同期比0.8%減少した。地域からの訪星客を見るとASEAN諸国が34%（7万8194人）。次いで日本が21.3%、オーストラリア10.6%、インド6.5%、アメリカ5.5%となった。

5. 物 価

卸売物価指数は前年同期比3.2%に低下して、一方、消費者物価指数は昨年同期比1.2%増にとどまった。シンガポール9月の消費者物価指数は前月比0.4%、昨年同月比1.3%に上昇した。

7月末におけるシンガポールの公的外貨準備高は188億2430万Sドルを記録し、6月末の188億8700万Sドルに比べ、3270万Sドル減少した。

事務局 M. Y. WONG

シンガポール主要経済指標

		マネーサプライ (M 1)	銀行 貸出金	非銀行 顧客預金	最優遇貸出金利 (平均) (%)
		(MILLION DOLLARS)			
	1981	7,242.1	25,229.1	20,007.9	11.83
	1982	8,156.8	29,442.9	23,408.7	9.33
	1982 III	7,414.2	27,380.1	20,696.5	10.33
	1982 IV	7,920.0	28,824.6	22,677.3	9.47
	1983 I	8,252.0	29,813.8	23,594.2	9.30
	1983 II	8,152.9	30,522.2	23,873.2	8.98
	1983 III	8,098.4	31,706.7	24,272.8	8.98
前年比	1981	18.1	24.9	24.8	—
	1982	12.6	16.7	17.0	—
前期比	1982 III	1.2	3.6	8.4	—
	1982 IV	6.8	5.2	9.6	—
	1983 I	4.2	3.4	4.1	—
	1983 II	1.2	2.4	1.2	—
	1983 III	-1.0	3.9	1.7	—
前年 同期比	1982 III	17.3	13.8	17.7	—
	1982 IV	9.4	14.3	13.3	—
	1983 I	12.7	16.3	18.3	—
	1983 II	11.2	14.2	20.8	—
	1983 III	9.2	15.8	17.3	—
		工業生産指数	石油精製品 石油製品	電子関連機械	輸送機械機装
		1978 = 100			
	1981	141.8	118.4	176.2	200.9
	1982	133.0	121.5	153.2	178.5
	1982 III	134.8	121.7	158.2	175.4
	1982 IV	129.6	121.5	152.6	161.7
	1983 I	122.2	115.1	139.2	161.6
	1983 II	135.9	120.4	170.7	168.3
	1983 III	140.1	127.4	178.0	169.5
前年比	1981	9.6	17.2	5.1	26.5
	1982	-5.6	2.6	-11.2	-11.1
前期比	1982 III	-2.2	1.3	-2.4	-3.6
	1982 IV	-3.9	-0.2	-3.8	-7.3
	1983 I	-8.5	-4.6	-9.7	-1.5
	1983 II	9.5	6.1	24.0	1.2
	1983 III	3.1	5.8	4.3	0.7
前年 同期比	1982 II	-7.3	0.2	-10.1	-18.6
	1982 IV	-11.2	-3.1	-5.2	-29.4
	1983 I	-10.2	-4.8	-1.6	-18.8
	1983 II	-5.5	0.9	6.3	-9.5
	1983 III	3.9	4.7	12.5	-3.4

		輸 入	輸 出 (MILLION DOLLARS)	対日輸入	対日輸出
	1981	58,248.0	44,290.8	10,957.4	4,487.6
	1982	60,244.6	44,472.8	10,791.0	4,843.9
	1982 III	14,933.5	10,869.9	2,743.3	1,316.8
	1982 IV	15,010.8	11,044.7	2,674.3	1,169.4
	1983 I	14,280.7	10,595.1	2,563.0	1,051.4
	1983 II	15,367.6	11,793.9	2,722.4	966.9
	1983 III	14,933.4	11,832.8	2,751.1	1,123.7
前 年 比	1981 1982	13.5 3.4	6.8 0.4	19.6 - 1.5	34.4 7.9
前 期 比	1982 III 1982 IV 1983 I 1983 II 1983 III	- 0.1 0.5 - 4.9 7.6 - 2.8	- 7.4 1.6 - 4.1 13.2 0.3	- 1.6 - 2.5 - 4.2 6.2 1.1	2.9 -11.2 -10.1 - 8.0 16.2
前 年 同 期 比	1982 III 1982 IV 1983 I 1983 II 1983 III	- 0.8 3.3 - 6.8 2.6 - 0.1	- 7.4 - 0.9 - 1.7 0.5 8.9	- 3.0 - 8.1 - 0.9 - 2.4 0.3	- 2.2 - 8.2 - 2.5 -24.5 -14.7
		シンガポール 訪問者（到着） (THOUSAND)	卸売物価指数	消費者物価指数	公的外貨準備高 (MILLION DOLLARS)
	1981	2,828.0	158.6	124.4	15,491.1
	1982	2,956.0	151.9	129.3	17,917.9
	1982 III	790.0	151.5	129.0	16,588.9
	1982 IV	762.0	151.2	129.8	17,620.1
	1983 I	686.0	146.9	130.4	18,242.4
	1983 II	689.0	145.5	130.5	18,281.9
	1983 III	742.0	146.6	130.6	18,281.9
前 年 比	1981 1982	10.8 4.5	3.9 4.2	8.2 3.9	12.6 15.7
前 期 比	1982 III 1982 IV 1983 I 1983 II 1983 III	12.9 - 3.5 - 10.0 0.4 7.7	0.3 - 0.2 - 2.8 - 1.0 0.8	0.2 0.6 0.5 0.1 0.1	3.7 6.2 3.5 0.2
前 年 同 期 比	1982 III 1982 IV 1983 I 1983 II 1983 III	19.3 1.9 - 1.9 - 1.6 - 6.1	- 4.5 - 2.0 - 4.0 - 4.2 - 3.2	1.4 0.9 0.5 1.4 1.2	7.9 11.5 14.0 10.2

会 員 紹 介

• A. C. E. DAIKIN (SINGAPORE) PTE LTD



所在地： 104 Boon Keng Road # 03-04, Singapore 1233

電 話： 2981266

設 立： 1968年12月（登記）、1969年3月（操業）

形 態：子会社

代 表：荒島 弘晴（代表取締役社長）

Mr. H. Arashima (President)

従業員：97名、日本からの派遣社員3人

事業内容

- | | | |
|-----------------------------------|---|--|
| 1) Products | 2) Sales to: | 3) Purchase |
| Daikin "Econair" Multi room | | From: Daikin |
| Air Conditioners. | | Industries Ltd. |
| Daikin Air Conditioning Equipment | Dealers, Contractors,
Developers and
End-Users. | Daikin Industries Ltd. |
| Daikin Centrifugal Chillers | | Daikin Industries Ltd. |
| Daikin Air Handling Units | | Locally Manufactured
under License by
Daikin Industries Ltd. |

(会社の特色)

“技術力を結集して躍進へのステップを” 本年のモットーとして、技術のダイキンの確立を目指す。

• **JUST TECHNIQUES PTE LTD**

(ジャスト・テクニクス・プライベート・リミッテッド)

所在地： 6001 Beach Road # 15-05, Golden Miles Tower, Singapore 0719

電話： 2970310

設立： 1982年9月（登記）、1983年5月（操業）

形態：合 弁

代表：下阪 康弘（取締役）

Mr. Y. Shimosaka (General Manager)

従業員： 10名、日本からの派遣社員3名

事業内容：コンピュータ・ソフト・ウェア開発、導入コンサルティング

(会社の特色)

ユーザーの要求するシステムに対し100%応える、ソフト・ウェア開発を通じシンガポールのコンピュータ技術向上に寄与する。

理事会の動き

第173回 12月13日(火) 午後12時30分

議事に先立ち、シンガポール・タイムの渡部理事から転勤あいさつ、引続き後任の小林理事より就任あいさつがあった。

議 事：

1. 日本政府協力による「生産性向上計画」の概要について

N P Bの石原氏より同計画の概要、協力の基本的枠組について別紙の通り説明があった。また同計画の推進にあたって派遣専門家の本所各委員会への傍聴、企業訪問、運動の進め方・訓練に対する助言について、本所への協力要請があり、本所としてできる限り協力していくこととなった。

2. 前回議事録承認

異議なく承認された。

3. 審 議 事 項

(1) 経営研究委員会担当並びに財務担当理事の選任について 次の通り決定した。

①経営研究委員会担当理事

(旧) 渡部悌介氏(シンガポール・タイム)

(新) 竹田具視氏(ヤオハン・シンガポール)

②財政担当理事

(旧) 平井喜平氏(三井銀行)

(新) 長野敏章氏(三井銀行)

(2) ADVISORY COMMITTEE ON TRAINING OF NPBの本所代表委員 の後任選任について

渡部理事(シンガポール・タイム)の後任として横河電機シンガポールの渡辺理事を標記COMMITTEEへの本所代表として選任

した。

(3) 事務局職員の賞与支給について

豆原総務担当理事より事務局職員に対し例年通り賞与を支給したいとの提案があり、審議の結果、異議なく承認された。

(4) J C C I 忘年会の開催について

豆原総務担当理事より12月18日(日)午後7時から水戸会頭邸で深田大使ご夫妻はじめ本所理事・顧問を招待して忘年会を開催したい旨提案したところ、異議なく承認された。

(5) NPB 主催 1984 Q C CIRCLE CONVENTION への日本チーム派遣の検討について

NPB より要請のあった標記の件に関しては、各社とも日本の本社と相談のうえ、来年3月中旬ごろまでに派遣の有無を本所事務局宛連絡することとなった。

4. 報 告 事 項

(1) PRODUCTIVITY MONTH '83 への J C C I 参加事業報告について

PRODUCTIVITY MONTH '83に関連して本所が主催したポスター・コンクール、Q C サークル研究発表大会および生産性セミナーが無事終了した旨事務局より報告した。

(2) 元在日留学生の日本への研修派遣について

NGEE ANN POLYTECHNIC の LECTURER MR. LOCK KAI HONG を AOTS (海外技術者研修協会)を利用して日本へ派遣する準備を進めているが、このたび日立製作所での受入れが決まり、今後、AOTS への申請手続きが済み次第、早ければ来年早々にも研修開始となる旨事務局より報告した。また、本理事会終了後、正副会頭並びに日立製作所木村所長によりMR・LOCK の面談が行われた。

(3) マレーシア日本人商工会議所の設立について

11月28日マレーシア日本人商工会議所の設立総会が開催され、正式に発足した旨事務局より報告した。

なお、同会議所の所在地は次の通り。

THE JAPANESE CHAMBER OF TRADE AND INDUSTRY, MALAYSIA
5 TH FLOOR WISMA MISC
JALAN CONLAY, KUALA LUMPUR
TEL. NO: 427106

(4) 部会・委員会等開催報告

①部 会

- * 11 月 10 日 (木) 第三工業部会
- * 11 月 15 日 (火) 繊維分科会
- * 11 月 25 日 (金) 第一工業部会

②委 員 会

- * 11 月 11 日 (金) 広報委員会
- * 12 月 9 日 (金) "
- * 11 月 17 日 (木) 経営研究委員会
- * 11 月 29 日 (火) " 懇親会
- * 12 月 1 日 (木) 生産性・福利厚生・教育訓練合同
委員会

③懇 談 会 等

- * 11 月 9 日 (水) Q C サークル研究発表大会
- * 11 月 18 日 (金) 生産性セミナー
- * 11 月 21 日 (月) シンガポール国際商業会議所との
懇親ゴルフ大会
- * 12 月 6 日 (火) 運営担当理事会
- * 12 月 12 日 (月) シンガポール商工会議所連合会と
の夕食懇談会

(5) NWC 勧告関連情報の共同収集に関する SNEF 提案について

先般開催された SNEF との会議に本所代表の 1 人として出席された後藤理事より次の通り報告があった。

来年度の NWC 勧告に備えて雇用者機関が意思統一を図るため共同して情報収集にあたりたいとの SNEF の提案に応じることとな

り、これに関連して近日中に会員各位に本所事務局より調査票が送付されるので協力してほしい。なお、SNEFに加盟している場合には同じ調査票が送付されることになるので、その場合には直接SNEFへ返送いただきたい。

5. 入 会

高橋組織担当理事より下記の入会が報告され、審議の結果、次の通り決定した。

*入 会 (3 件)

- ** HOKURIKU (SINGAPORE) PTE. LTD. “ B ”
- ** KIKKOMAN (S) PTE. LTD. “ A ”
- ** JAST TECHNIQUES PTE. LTD. “ C ”

6. 会 計 報 告

吉永財務委員より1983年11月分の会計報告があり、異議なく承認された。

以 上

12月～1月までの主な経済記事

- 12月15日 ○ 新しい著作権法案が2～3カ月中に完成し、国会に上程される見込みである。

シンガポールでは現在、1911年英帝国著作権法のもとで著作権が保護されているが、時代遅れの同法のもとで音楽や映画、ビデオのテープ、複写機、コンピューターソフトウェアなどの知的所有権を十分に保護することは困難になっている。

そこで政府は1980年に法務、文化、内務、通産など関係各省の代表を含む委員会を設置し、同委員会が世界知的所有権機関（WIPO）などの国際業界団体とも協議を重ねたうえ、新しい著作権法の作成に取り組んできた。

同委員会が目下、最終報告書を作成中で、同報告書は関係各省と検事総長の承認を経た後、国会に提出されて最終承認される運びとなっている。

新しい著作権法は1991年著作権法を修正して、コンピューターソフト、ビデオテープ、複写機、その他の当時は存在しなかった知的財産に対する保護を含めるとともに、施行規定や違反者に対する罰則を強化するものと見られる。

- 政府はシンガポールの建設業で働こうという香港とマレーシアの労働者に訓練奨学制度を提供する計画を発表した。同計画は現在シンガポールで働いている多数の未熟練人労働を徐々に排除し、代わりに、訓練を受けた若い外人労働者を採用して、建設業の生産性を上げることを最終的な目的としており、現在進めている外人建設労働者採用計画の

一環をなすものである。同計画では、様々の優遇措置が講じられるが、中でも、訓練終了後３年間の契約期間をシンガポールで働いた者には希望により永住権が与えられる。政府は来年１月末までに香港から５０～１００人を同奨学計画のもとで採用し、その後、毎年同程度の数の奨学生を募集していく計画という。マレーシアから労働者にも同様な奨学制度を実施するがシンガポール人、香港人、マレーシアの優先順で採用される。

２２日 ○ シンガポール全国雇用主連盟（SNFF）の最近の給与調査によると、ブルーカラー労働者の高給が目立っている。

同調査は合計１万８３４８人の労働者（管理職を除く）を雇用する６９社を対象として行なわれた。

今年６月の労働者１人当たり平均月給職種別に見ると、生産オペレーターの平均月給は６１２ドル（Ｓドル、以下同じ）となっており、販売アシスタントの５４２ドル、クラーク／タイピストの５８８ドル、受付／電話交換手の５６６ドルを上回っている。

熟練ブルーカラーの給与はさらに良く、エンジニアリング・アシスタントの平均月給は１０２５ドル、技術工（technician）９６１ドル、電気工９１５ドル、整備工（fitter）７５４ドル、メカニック６９０ドルとなっている。技術工と電気工の平均初任給は約６００ドル。

また、速記者／下級秘書の場合、平均月給は７７３ドル、平均初任給（経験１年以内）は約５００ドルとなっている。しかし経験１０年以上の有能な速記者になると最高２４６０ドルもの月給を得ており、同程度の経験をもつ技術工（最高２０２２ドル）や電気工（同１５４０ドル）を上回っている。

また、同じ職種でも業種により平均月給に大きな差があり、例えば速記者／下級秘書の場合、卸小売業では平均

995ドルの高級を得ているのに対し、海運業では平均600ドルと低給である。

コンピューター・オペレーターの新産業平均月給は690ドルだが、保険業と卸小売業で比較的高給、銀行・金融業では平均622ドルと低い。ただし、銀行・金融業では通常、年間3カ月のボーナスが出ているので年間給与では差がないと見られる。

 Blue-collar workers vs White-collar workers 			
Median gross salary of workers			
Engineering assistant	\$1,025	Cashier	\$810
Technician	\$961	Stenographer/ Junior secretary	\$773
Electrician	\$915	Computer operator	\$690
Fitter	\$754	Clerk/typist	\$588
Mechanic	\$690	Receptionist/ telephone operator	\$566
Production operator	\$612	Sales assistant	\$542

27日 ○先週の国会に、銀行に対する規制強化を目指す銀行法改正案が上程された。

次のような改正点が含まれている：――

- ・ 銀行当局（この場合、金融管理局を指す）が銀行内に立ち入り、銀行帳簿に自由に接近する権限を認める。

- ・ 銀行当局に虚偽または誤まった情報を“承知の上で、または無とんちゃくに”提出した者は違法行為として処罰される。

- ・ 何人もMASの承認なしに同一銀行の20%以上の株式を取得することは認められない。（銀行株の取得制限）

- ・ 銀行がその資本の30%以上を同1人に貸し出すことは違法行為となる。（現行法では60%に制限されている）

- ・ 銀行がMASの承認なしに同一企業の20%を超える株式を保有することは認められない。

28日 ○ 去る20日に第1回国会審議に付された銀行法修正案は来年末までに施行される見込みで、銀行自身の業務活動だけでなく、地元の会計士や、非銀行企業の投資活動にも大きな影響を及ぼすことが予想される。

同修正案は1983年銀行（修正）法案と名づけられており、説明文を加えて国会提出レポートは全24ページ。今回の修正は近年で最も包括的な修正といわれ、銀行の業務活動からローン・ポートフォリオ、ギャリング、資本構成、取締役の責任まで及び、違反行為に対する罰則も著しく強化されている。

銀行筋はこれらの修正点の一部はすでに金融管理局（MAS）の各種通達で実施されているとしながらも、修正が大幅であり、その施行に関心をもって見守ると述べている。

○ 銀行法修正案ともに会社法修正案も20日の国会に上程されている。同案は説明文を加えて全54ページに及ぶが、多くは現行法の不備を改善するための技術的修正にとどまっている。

しかし次のように幾つかの重要な修正も含まれている；

- ・ 株式と保証の両方による有限責任会社としての登録の禁止。修正法ではどちらか一方による有限責任会社として登録しなければならない。
- ・ 株主割当有償増資の場合の募集趣意書の発行義務づけ。
- ・ 無限責任会社から有限責任会社への転換、またその逆方向への転換の認可。
- ・ インサイダー取引の取り締まり強化。
- ・ 会社取締役への監視強化。
- ・ 資本市場育成への協力促進。
- ・ 株式公開買付・合併網領に即するよう株式公開買付規定の修正。

84年1月5日 ○ 政府は外人労働者雇用活動の秩序を正すため、近く雇用代理業法・雇用代理業規則を改正し、2つの規制措置を導入する。

その1つは無免許の雇用斡旋活動に対する罰則を強化して、違法行為を一掃すること。もう1つは非伝統国からの外人労働者の雇用斡旋業務を認められた免許業者に1万Sドルの保証金提出を義務づける措置である。違法行為など問題を起こした場合には保証金は没収され、約束の職が与えられず行き場を失った外人労働者の帰国費用などに充当される。

これらの規制強化方針はジャヤクマール労相代行兼法務および内務担当国務相により12月30日、シンガポール筋肉労働者および商業労働者組合（SMMWU）の年次夕食会で明らかにされた。

同相は新しい罰則規定の詳細について明らかにしなかったが、現在の罰則が軽すぎるため無免許業が違法を承知で横行して

いると指摘しており、罰金額が数1000 S ドルに引き上げられるものと見られる。(現行法の罰則は初犯で500 S ドル、再犯で罰金1000 S ドルまたは禁固6カ月以内)

現行の雇用代理業法・雇用代理業規則は1950年代の失業率が高い時代に施行され、地元労働者を悪徳職業紹介業者から保護することを目的としており、労働者不足による外人労働者雇用が問題となっている現状に合わなくなっているため、改正される。

廣 報 欄

** NEW MEMBERSHIP (10th JANUARY 1984)

- * A.C.E. DAIKIN (SINGAPORE) PTE LTD
Mr. H. Arashima (President)
104 Boon Keng Road #03-04
Singapore 1233
Tel: 2981266

** CHANGE OF ADDRESS

- * TAKASAGO THERMAL ENGINEERING CO LTD
921 Bukit Timah Road
3rd Storey, TCB Building
Singapore 2158
Tel: 4698983 (5 lines)

- * KOKEN BORING MACHINE CO LTD
15 West Coast Highway #02-05
Pasir Panjang Wharves Building
Singapore 0511
Tel: 7776177/8, 7790717

** CHANGE OF NAME OF REPRESENTATIVE

- * HAZAMA-GUMI LTD
From Mr. T. Kobayashi to Mr. M. Aihara
- * HITACHI CHEMICAL (S) PTE LTD
From Mr. K. Hirai to Mr. Y. Shimazaki
- * KASHO COMPANY LIMITED
From Mr. S. Toda to Mr. H. Takahashi

** CHANGE OF TELEPHONE NO.

- * TOYO KANETSU K. K.
TEL: 5341141

資料案内

国内一般

シンガポール共和国概要(1981年)	S\$10
シンガポール共和国移住法	S\$15
民事法	S\$ 5
刑法(暫定規定法)	S\$10
公益事業法	S\$10
JAPANESE AFFILIATED FIRMS IN SINGAPORE	(非会員) S\$30
	(会 員) S\$15

投資関係

トップマネジメントのためのオリエンテーション	
(改訂版)	(非会員) S\$40
	(会 員) S\$15
資金援助制度の手引き	S\$ 8
法律15号(経済拡大奨励法改正法)1979年	S\$ 5

租税・税制

法律第2号共和国所得税法改正(1973年)	S\$ 5
法律第13号 " (1977年)	S\$ 5
法律第17号 " (1980年)	S\$ 5
法律第20号共和国所得税(改正)令	S\$ 5
シンガポールとの租税(所得)条約	S\$ 5
法律(改正)時報第21号(経済拡大奨励法及び所得税法改正法)	S\$ 5
シンガポールの租税	S\$15

会社法

法律第1号(共和国会社法改正)1970年	S\$ 5
法律第4号(共和国会社法改正)1974年	S\$ 5
法律第19号1980年中央厚生年金法告示(付表の入替)	S\$ 5
法律16号(会社の買収及び合併に関する)	S\$ 5
シンガポール共和国会社法	(会 員) S\$60
シンガポール共和国会社法	(非会員) S\$70

為替管理・関税

関税法（1979年関税令）	S\$ 15
法律第6号（為替管理法改正）1976年	S\$ 5
法律第9号（共和国関税法改正）1976年	S\$ 5
金融業者法	S\$ 10
財務諸表公開原則	S\$ 15

業種別規則

シンガポール共和国製造業管理法	S\$ 8
法律第18号工場法改正法（1973年）	S\$ 5
大気汚染防止法（1971年）	S\$ 10
建築物規制法（1973年法律第59号）	S\$ 5

特許・商標・その他

シンガポール共和国特許（実施権）法	S\$ 5
シンガポール共和国商標法	S\$ 10
価格規則法	S\$ 5
1975年水質汚染規制及排水法	S\$ 10
1971年海洋汚染防止法	S\$ 5

労働関係

シンガポール共和国労働雇用法、労働組合法、労働関係法	S\$ 30
労働組合法（1977年）	S\$ 10
法律第3号（共和国労働雇用法改正）1970年	S\$ 5
法律（改正）時報（第25号）	S\$ 5
法律（改正）時報（第26号）	S\$ 5
法律（改正）時報第22号（雇用法並びに労働者補償法）	S\$ 5
法律（改正）時報第23号（中央厚生年金法改正法）	S\$ 5
労働雇用法（1976年幼少年雇用規則）	S\$ 5
法律（改正）時報第24号（中央厚生年金改正法）	S\$ 5
法律（改正）時報第27号（中央厚生年金法を改正する法律）	S\$ 5

商工会議所出版物

業種別会員名簿（1983年）	(会 員)	S\$ 15
	(非会員)	S\$ 30
月報（各月号）		S\$ 8
国際比較統計要覧		S\$ 5

編集後記

「月報」読者の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

このたび凸版印刷のご協力を得て本年1月号から表紙を一新し、やがて消えゆくチャイナタウンの光景を表紙に用いることに致しました。また、新たな試みとして、ページの余白部分を利用して“GOLF～思い出の一打～”と題してご寄稿いただいた記事をコラム風に掲載することに致しましたので、どしどしご寄稿ください。広報委員会一同、引続き皆様のお役に立つ記事を掲載してゆく所存ですので、本年も相変りませずご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

さて、1月号の内容を紹介いたします。

冒頭には恒例により「**新年随想**」と題して理事、監事、オブザーバーの方達にご寄稿いただきました。

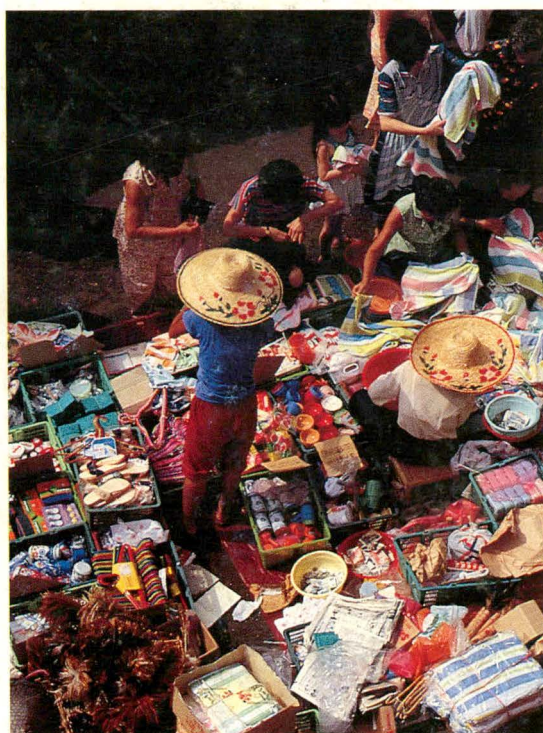
また、大林組の**花嶋氏**には「**地下鉄とMRT**」と題して、注目を集めているシンガポールのMRTの概要と世界の地下鉄の歴史と現状等についてご執筆いただきました。

最後に、本年2月に操業が予定されている「**シンガポール石油化学コンプレックスについて**」、PCSの**泉井氏**にその経緯とコンプレックスを構成する各社のプロフィールを中心にご執筆いただきました。

今月号の担当は、**植木**（東京銀行）、**池沢**（凸版印刷）でした。

MONTHLY REVIEW

STRICTLY MEMBERS ONLY



M. C. (P) No. 58 / 4 / 83

PRINTED BY
GREEN MOUNT PUBLICATION & PRINTING CO.
155 Kallang Way # 02 - 11 / 12
Singapore 1334. Tel: 2923831

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY SINGAPORE

C. P. F. BUILDING, 79 ROBINSON ROAD, # 24 - 04 (24th Storey) SINGAPORE 0106